

平成24年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成24年9月10日(月曜日)

議事日程第3号

平成24年9月10日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君	
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君		
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君		
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君		
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君		
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君		
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君		
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君		
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者	会計課	長	結城	一也君	
ガス水道局長		小林	忠君	消防	長	小林	強君		
教育	長	竹田	正光君	教育次	長	伊奈	晃君		
教育委員会	こども課	長	吉田	一郎君	教育委員会	教育総務課	長兼務		
教育委員会	文化振興課	長	佐々木	繁雄君	教育委員会	生涯学習課	長		
歴史民俗資料館	長兼務				中央公民館	長兼務			
長者ヶ原考古館	長兼務				市民図書館	長兼務			
					勤労青少年ホーム	館長兼務			
					監査委員	事務局	長	横田	靖彦君

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	主任	主	査	水島	誠仁君
主	査	大西	学君					

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、3番、斉木 勇議員、17番、五十嵐健一郎議員を指名いたします。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

7日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、交流人口拡大対策について伺います。

1、交流人口拡大対策について。

糸魚川市の人口減少は総合計画での将来予測の推計よりも、幾分かは鈍化しているものの、合併時よりも約4,000人減少しております。

全国のほとんどの地域において定住人口が増えない中で、各地域は交流人口確保のために競い合っていて知恵を絞っており、この状態は今後ますます激しさを増していくのではないかと思われます。

具体的には、人々を呼び込み消費活動を促進することで地域経済の活性化につなげていくことが重要となっており、当市でも様々な対策が講じられているところでありますが、合併後の観光入込客数の推移などから見て、思うような効果が表れていないと感じております。

まずは、各施策が計画通り実施されているのかどうか、なぜ効果が表れないのか等、定期的に各種プランの検証と見直しを図り、目指すべき方向をより明確にして、実効ある対策につなげる必要があります。

以上の観点から、主に5点の項目について伺います。

(1) 関係プランにおける投資と効果、検証と見直しについてであります。

交流人口拡大プランから始まり各種のプランが打ち出され、実施されてきましたが、効果の測定と検証がどのように行われているか伺います。

(2) 各機関との連携強化についてであります。

各種事業は公的機関や実施団体などとの協力連携を強化することにより、効果が期待できると考えており、その仕組みと対応について伺います。

(3) 各種情報発信と情報交流人口拡大の重要性についてであります。

各種情報の作成と発信に関する投資と効果、特定多数を対象にした情報交流人口拡大の重要性と情報戦略構築に関して伺います。

(4) ふるさと市民制度の導入提案についてであります。

特定多数を確保でき、交流人口拡大には効果的な制度であり、ふるさと納税へのお願いにもつながるが、導入の考えはないか伺います。

(5) 来訪者のマナーについてであります。

交流人口拡大の陰に、来訪者による山菜取りや釣りなどのマナーの問題があり、全市的な取り組みが効果的と考えるが、いかがか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、入り込み客数及び宿泊者数、訪問者の満足度やニーズを基本に、各種プランの数値目標と照らし合わせ、改善しながら取り組んでおります。

2点目につきましては、ジオパークの推進母体であります糸魚川ジオパーク推進協議会の構成団体を中心に連携をして事業を進めているほか、個別の取り組みにつきましては、その内容に応じて各種団体と連携協力をしながら事業を進めております。

3点目につきましては、来訪者への案内ツールといたしまして、パンフレットやホームページ、テレビ番組や観光キャンペーンなどによる情報発信を展開することにより、効果、結果を出していきたいと考えております。

現在、ソーシャルネットワークを活用した口コミなどによる情報伝達方法が重要視されておりますので、今後はそれらも活用した効果的な情報発信を進めてまいりたいと考えております。

4点目につきましては、東京糸魚川会など各地で活躍いたしております団体との連携を深めることにより、交流人口の拡大やふるさと納税につながるものと考えておりますので、新たな制度の導入は今考えておりません。

5点目につきましては、ジオパークは自然遺産保護も理念にあることから、関係団体と連携をしながら、マナーの周知を徹底していきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からも答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それでは1点目の関係プランにおける投資と効果、検証と見直しについて、再度伺いたいと思います。

思うような効果が上がってないと感じているという表現をさせていただきましたが、現段階で市民はどのように感じているかという受けとめ方なんですが、調査をされておられましたら、その概

要を教えてくださいたいことと、それと行政としてはどのように受けとめているか、お願いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

おはようございます。

それでは、私のほうから話をさせていただきます。

ジオパークのそれぞれの活動でありますけど、この3年間、それぞれ市民を巻き込みながら、いろんな形で展開をしてきました。ただ、全体的には末端まで全部届いて、それが1つの矢のように集中的に高まりを見つつあるかということになれば、まだまだ正直、疑問な部分もあると思います。

1つには、このジオパークが全国的に、世界的に、1つはネットワーク上を含めまして、認知されるということが大きな課題でありますし、それがやはり地域のいわゆる経済効果として波及しなきゃいけないというところが、大きな課題ではないかなというふうに思っております。また、組織をしっかりと再編しながら、それぞれの活動に当たらなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それでは、まず、交流人口というか、観光入り込み客でよろしいんですけども、地域に対しどれぐらい経済的に貢献しているかという点で、お伺いをしたいわけなんですけども、まずは平成23年度の入り込み客ですけども、173万1,180人、宿泊者が17万5,920人と集計が出ておりますけども、問題はこの消費額ですね、総消費額をどれぐらいというふうに見ているか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

平成23年度のデータでは、今、議員お話のとおり、173万1,000人ということでありませぬ。特に前年に対しては、海水浴の入り込みが非常に少なかったというデータで分析しております。ジオパークの効果そのものにとっては、総消費額としては今のところ算定は全体的にはしてありませんけど、ジオパーク関連の少し増員に対する効果ということでもありますけども、最終的にはジオパーク戦略プランの中で、中期的な21億円という方向で示されておりますけど、それに対して昨年度、大体試算してみますと、ジオパーク直接効果としては、市内で1億5,000万円程度を把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

今、明確な答弁がなかったんですけど、この総消費額の算定につきましてはジオパークの戦略プランで、いわゆる公式をつくられておるわけですね。したがって、23年度の集計が出ればすぐそれに当てはめて、直接消費額ですけどね、これ出せるわけなんですね。

私も一応、今お伺いしましたけども、私の手元でそれに当てはめると、123億円というふうに算定できるんじゃないかと思うんです。これは直接効果ですから、この直接効果だけではどうだというのをなかなか言いにくいわけで、むしろこの23年度の経済効果、いわゆる1次効果、2次効果、これくらいまでやっぱり算定することによって、効果があったかないかというふうなことが言えるわけなんですけど、そうするとこの経済効果、1次効果、2次効果についても算定されていないということなんでしょうか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お話のとおり1次効果、2次効果を含めまして、総入り込み数に関しては人数の把握はしておりますけど、効果的には算定をしております。ただ、そこに今やっております、先ほどの話のとおり、ジオパーク関連に関する部分での抜き出しで、どれだけ年間増があるのかということは把握をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

これはやはり交流人口の拡大というのは、入り込み客もさることながら、いわゆるそれによって経済がどう動いたかというのが非常に大きな問題になるわけで、1次効果としては生産誘発効果はどうだったか、2次効果としては雇用、この辺がどうだったかというのまで、やっぱりきちっと絞り込んで、そして新たな戦略を立てるという形をとらなければ、何ら入り込み客数だけ見て多かった、少なかったと、これではやっぱりまずいと思います。

それから私が今回お願いしたいのは、いわゆる合併前と23年、7年経過したわけですけども、この間にどういう効果があらわれたかということも、実は非常に気になる場所なんですね。そんなことで23年に限ってみた場合、そうしますと22年度よりも減少している。入り込み客でも結構です、減少した原因、この分析というのは済んでおりますか、概要をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

先ほど若干お話をさせていただきましたけど、特に23年度データで173万1,000人、そのうち特に海水浴で天候不順もありました。前年対比82%ということで、非常に落ち込みが激し

かったというふうに確認しております。それ以外、拠点施設等は、ほとんど横並び、なしいは前年度、同一レベルで推移しているというふうに把握をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

昨年の場合、東日本大震災がありまして、前半は非常に厳しかったというふうなことであります。総体的には、危惧していたほど落ち込みがなかったんじゃないかというふうに思いますけども。

ここで権現荘についてちょっとお聞きしたいんですが、22年度が約5,000万円の欠損であったと。昨年、非常に心配をしておったんですが、まだ公式でないみたいですが、23年度、昨年の収支をお聞きしますと、半減の2,500万円くらいの欠損というふうに聞いているんですが、これは特別な理由があったんでしょうかね。必ずしも入り込み客数と収支は一致するものではないわけですけども、ちょっと参考までにお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

権現荘の23年度につきましては、22年度に比べて入り込み客も上回ることができました。ただ、これにつきましては22年度にコンサルタントから、こういうメニューを置いて力を入れなきゃ悪いんじゃないですかという報告をもらいました。

具体的に言うと、やっぱり権現荘というものについては、宣伝広告についてももう少し力を入れていかないと、今の状況を脱することが難しいんじゃないかというふうな指摘をいただきましたので、それに基づいて、宣伝広告に力を入れさせてもらいました。その辺において今までよりも市外にいいですか、外に対してPRすることができたのだろうというふうに思います。

もう1点は、ネットエージェントと言われるエージェントに加入することによって、そこがある意味、外部に対する窓としては大きく開いた部分だと思いますので、そういうふうな結果から利用人数、それから売り上げ面においてもふやすことができましたけれども、今、議員から話がありましたように、残念ながら赤字解消というところまではいかなかったというのが、23年度の結果というふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今のお話をお聞きしますと、戦略の練り直しといいですか、中身の精査によって、かなり経営が好転する兆しもあるわけですね。先ほど申し上げましたように平成16年と平成23年、昨年との比較であります。私なりに調べてみたんですが入り込み客数で52万人減、23%の減ですね。それから宿泊数においては4万6,000人の減で、21%の減と。消費額では、年間約36億円

の減というふうな状況で出ておるわけですが、合併前に比べて36億円余り消費が落ちてるということなんですが、では糸魚川市の人口、4,000人ほど減少してるわけですけども、この減少というのは、消費にどれくらい影響が出ているかということなんですけども。

ちなみに、糸魚川市の1人当たりの消費額というのは、どれくらいになっているのか。糸魚川市の数値がなければ新潟県でも全国でも結構なんですけども、1人当たりの消費額というのは、おおよそどれくらいになっているか、お聞きをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

おはようございます。

今のご質問でございますけども、家計調査で県内の3都市が調査をされております。当市は行っておらないわけですけども、それらと消費物価の地域差指数等を兼ね合いますと、平成22年、糸魚川市に置きかえますと、8万4,468円の1人当たりの消費支出額が見込まれます。平成16年の消費支出額と人口減を兼ね合わせますと、約95億円ほどの総消費支出額の落ち込みが見られるというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、糸魚川市の1人の消費額というようなことで、おおよそお話をいただきましたが、月額約8万5,000円くらい、そうすると年間102万円くらいですか。そうすると単純に4,000人減りますと、41億円余りの消費支出減少というふうな試算になるわけですけども、先ほどの合併前、16年と昨年23年の比較で入り込みが52万人ほど減って、宿泊が4万6,000人ほど減っていると。それによって直接消費額だけでも36億円余り減ってるわけですが、この4,000人の人口減少で41億円余り減りますと、年間合わせて77億円ほど直接消費の減少が起きてるわけなんですけども、この人口減少と観光客の減少によって経済はダブルパンチを受けていると、非常に深刻な状況じゃないかというふうに思うんですが。

ちなみに、この糸魚川市における一般小売業の年間売上高の総額というのは、どれくらいになっているんですか、1事業所当たり。もしその数値があるようでしたら、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

総合計画の後期計画を昨年策定をさせていただきましたときに商業の概要のところ述べておりますけども、平成19年の小売、年間商品販売額を事業所で割り返しますと、1事業所当たり7,000万円ほどになります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

年間売上額が、1事業所約7,000万円ということなのですが、そうしますと消費額の77億円の減少というのは、110事業所分の売りに上げに相当するわけですかね。極論すれば100以上の事業所が廃業しても、不思議じゃないというような状況であるわけです。しかも残った事業所も大変厳しい状況だと。

こういうふうにして数字を見てみますと、この観光とか交流人口の拡大に関しては、関係者が効果をなかなか実感できないという状況はわかるわけです。この状況を打開するために、ジオパーク関連事業をはじめ各種の事業が組まれております。非常に結構ですし、より推進をしていただきたいんですが、合併後7年間の状況は、こういう状況なんですが、先行きが好転する、あるいはこういうふうにしていきたいという先行きについて、ちょっとお伺いしておきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ジオパーク関連、並びに観光としての見解になると思いますけど、1つは大きくは日本国内に対する、さっきお話がありましたジオパークとしての組織化、ネットワークの強化、それから認知度のアップということが大きくなると思います。

もう1点は、やはり市益の活動、つまりジオパークや観光を1つの題材としながら、糸魚川にある資源をしっかり保護、守りながら磨いていく。その中で、やはり他市と違ったPRなり啓発活動をする中で、糸魚川にたくさんの方が来ていただけるような、おもてなしにつなげていくということが大事だと思います。そのような現実を検証しながら、どれだけやはり人を誘えるかという、多面的にわたって少し検証が必要かなというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

今ほどの答弁に少し補足をさせていただきたいと思います。

入り込み客数だけではなくて、やはり交流人口の拡大、これをどう進めていくかということで、この先の展開を考えていかなければならないというご指摘かと思えます。

交流人口の拡大に当たりましては、観光の関係で入ってくる方のほかにも、今回はジオパークというテーマに沿って、これは学習や、あるいは学術研究、そういった専門的な観点から入ってくる方もおられる。それから、ほかにも例えば地域の観光資源とか、あるいは風景とか、あるいは鉄道とか、そういったものをマニアックに見たいという方もいらっしゃる。それから糸魚川の地で例えば勤務をした経験がありますとか、糸魚川の出身者であるとか、こういったいわゆる関係者、縁者

の方もいらっしゃると思います。さらには、ちょっと移動の途中で立ち寄ったというふうな、そういう方もおられると思いますが、こういうさまざまな方が交流人口の構成者であるというふうにとらえますと、それぞれに向けて、それぞれに適したアピール、あるいは対応をしていかなきゃならないというふうに考えております。

それがこの先、先行き交流人口を拡大していくという大きなテーマの中では、観光一辺倒ではなくて、全体的な取り組みの中でどこに力を入れていくか。そして今、ご指摘をいただきましたように、その人たちが地域に対してどのように経済効果をもたらしてくれるかと、こういったものをきちんと我々としても検証し、また、そのための対応策をしっかりと考えて進めていかなければ、先行きの拡大にはつながっていかないだろうというふうに考えております。

そういったことからジオパーク戦略プランの取り組みも、これからさらにてこ入れをしていかなきゃならないと考えておりますし、また、きょうご指摘をいただきましたように、やはり経済効果の検証といったこともしっかりとやった上で、では、それに対して、何を、どのように、誰に対して打っていったらいいか、これを考えていかないと、なかなかこの先の先行きの展開にはつながっていかないと思いますので、そういうふうなことを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私、各プランは、それなりに問題点を整理されておりますし、最近目標値をきちっと明示しておりますので、プランそのものは一定の評価をしたいというふうに思ってるんですが、何せ結果が出せない、そして目標値もだんだん下げてくるわけです。なぜ目標値に近い数字が出せないか、その結果が出せないのは、どこに原因があるのかという辺の突きとめ方が、非常に弱いというふうな気がするんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お話のとおり各事業を実施していく場合、やはり一定程度の指標を持ちながら実施しております。最終的には、その反省会等で結論を見る中で、常につなげていけるような反省をそこで出すわけですが、なかなか世の中が10年昔が5年昔というような形で、非常にピッチが早く動いております。そういうものになかなか対応しきれない部分と、それからお客様のニーズの多様化ということで、非常に広がりがある対応をせざるを得ない部分もあります。それから受け入れ体制に関しても、なかなか今の状況の中で全部が全部、それに対応するという難しさもあると思います。

ジオパークでいえば認定をいただいて3年間、できるだけ反省を加えながら検証してきたつもりなんですけど、それがなかなか末端まで含めまして、醸成されてないという点をご指摘だと思います。いかようにしたら次につなげる、しっかり成果を上げるかというようなチャレンジは、今後もしていきたいと思っておりますし、その視点は忘れないように描いていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

とにかくやると決めた計画につきましては、目標をクリアするために全力を出し切るということをやっぱり抽象的かもしれませんが、していただく必要があります。

企業であれば、絶えず責任が付きまとうというふうな状況下にあるわけですね、今。では、これらのプランで種まきもしてあるわけですので、今後、効果が見込めるものもあると思うんですけども、どのようなものが今後、今まで打ったプランの中から効果が期待できるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

特に交流人口拡大の点で言いますと、外からのお客様をふやすということが大きな課題になってくると思います。1つは正答例としては、春に実施させていただいた食の嵐、これはやはり広域連携の中から、糸魚川市が前に出ようということを進めさせていただきました。駅前に2万人という数を集めていただいたわけです。議員の皆さんからも非常に参加して、一緒に活動していただきました。そのような1つはヒット性を生む部分があると思いますので、そういう取り組みを大事にしていけないといけない。

もう1つは、クラブツーリズム等で、高浪の池周辺にかなりのお客様が、年間7,000人ほど新しく来ております。このような人たちは逆に返せば、やっぱり大型バスが行けない秘境ということで、やはり糸魚川の特質な部分を前面に出しての誘客であります。この方々とは旅行会社を含めまして、6年ほどのおつき合いの中から生まれてきたものというふうに思っております。少し粘り強く、糸魚川のPRをしっかりと、ほかと違う部分を啓発することによっての誘客活動に結びついたらと。

もう1点は、特に修学旅行、それから体験型ということで、先般、新しい学校が二、三、当市にお見えになりました。内容も5泊6日を基準とした非常に長期的な体験活動になっております。このようなものがもう少し定着されるよう各種教育団体と連携を図りながら、もう少し啓発、ないしは情報発信に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それでは、じゃあ2番目の各機関との連携強化のほうについてでありますけども、ジオパーク関係事業のほとんどが、ジオパーク協議会の名称で各種の事業が打たれているということですが、この協議会ですけども各分野の31の団体が集まって組織されておると。総会のほかに運営委員会、部会、委員会というものが設けられておるようですけども、この各委員会、部会の開催

回数、年間ですね、どれくらい開かれているのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ジオパーク協議会の総会そのものは、年1回が基本となっております。必要に応じて随時開催させていただきますけども、この間、総会のみという形になっております。協議会そのものは先ほどお話のとおり、国交省や環境省、林野庁を含めまして各事務所31団体、この市議会、糸魚川市も加わりながら活動をしております。重職を担っている方々が多いものですから、それが即、例えば実動部隊というふうにはいかない点が1つにはあります。ただ、総会ですから概略、年度の方向とか決算部分については審議されますので、重要な役割を果たしているものと。

今ほどお話がありました委員会とか、そういう部分ですけども、最終的にはワーキンググループということで、随時、商工会議所、それから観光協会、それからジオパークのガイドの皆さん、そのような各セクションを持つ皆さんとそれぞれ事務局員が一緒になりまして、ワーキング活動といいますが、日常的な事業実施に際しての委員会、並びに実行委員会ということで、連絡会議を頻繁にさせてもらっております。回数はちょっと把握しておりませんが、随時活動をしております。

以上であります。

4番（渡辺重雄君）

休憩をお願いします。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

+

+

午前10時36分 休憩

午前10時36分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

担当課におきましては、質問に対して端的にその是非、内容、数字等、把握しているなら発表を、また、把握していないなら把握していない旨を明確に伝えるように、議長のほうからお願いを申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

失礼しました。

総会から付託された事項ということでありますので、具体的には、運営委員会並びに委員会とも開催しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

非常に心配なんです。31団体、確かに私、名簿を見ますと強力な布陣です。しかし、総会を1回開いて、あと運営委員会、部会、委員会できめ細かにやっておられるのかというふうに思ったらやっておられない。非常に心配なのは協議会から各団体、企業、市民への流れなんです。このつながりがどういうふうになっているのか。逆に、市民、企業団体から協議会へという流れも大事なんですけども、この各細胞の流れがどうなっているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

例えば糸魚川商工会議所の検定委員会、糸魚川着地観光等の会、それから糸魚川ジオパーク案内室の導入検討部会等のワーキンググループとしての活動を設置して行っております。委員会とは言えないんですけども、小委員会ということで現場に携わる皆さんが一緒になりまして、事務局をあわせて実働の中で会議を持って、打ち合わせ検討会を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

せっかく協議会の中にいい規約がありまして、運営委員会、部会、委員会を組織してあるわけですね。ですから、こういうのを機能させて末端までやっぱりきちっと考え方なり、計画、企画を流していただきたいと。そうしないと、市民も協力しようがないというふうなことにどうしてもなってくるんで、やっぱり情報の共有を図るためには組織形態がきちっと、細胞が動いてないと、ちょっとまずいんじゃないかなという。私はせっかく、いわゆるジオパークに期待するものとして、非常に残念だというふうに思っております。

それから各機関が独自に観光とか、交流人口拡大の事業を計画し、実施しておるわけですね。そういう方たちの各種団体等が、どのような形で事業を実施しているか、掌握しているのか、お伺いをしたいわけです。かなりの機関が自主的に、ジオパークに協力する形で事業計画を立てておりますし、成果も上げておるわけなんですけど、その辺の掌握はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

実際は糸魚川振興局に代表されたり、あるいは糸魚川ジオパーク市民の会、それから銀行関連でつくっておりますまちづくりの会、いろいろな方々から商工会議所を含めて、いろんな活動に自主的に参画してもらっております。そのような活動の場合、必ず事務局との調整がありますので、そ

ういう中で事業の実施なり協力依頼、並びに派遣等を同時に並列にしながら、それぞれの連携を保っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

協議会のほうできちっとやっていただきたいというのが第一義でありますし、また、それから先ほどの各種団体の自主的な活動、加えて一般市民からアイデアを募集するとか、高校、大学、こういうところと連携して、もっともっと柔軟な発想と協働の力で、ジオパーク事業を盛り上げていただきたいというふうをお願いをしておきたいと思います。

それから次に、3番目の各種情報発信と情報交流人口拡大の重要性でございます。

とにかく物すごい量の印刷物で、立派なものが発行されております。これらの印刷物に関しては、見ていただく方にアンケートとかモニターというのはとったことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

それぞれ現場の実施の段階で、いろんな意見を聴取しておりますけど、アンケートそのものは今までとったことはありません。ただ、いろんなご要望をいただく中で、それぞれ改修、ないしは少し構築をし直したりして、パンフレット等の構成に当たっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

少し具体的なことを聞くようになりますけども、これらの印刷物の企画は計画的にやっておられるかと思うんですが、どこで、誰が主にやっておられるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

2つありまして、1つは一般予算の中での担当課としての位置づけ、それからもう1つは、ジオパーク協議会の中での位置づけになるかと思えます。どちらもジオパーク推進室の中で担当職員が1人に頼ることなく、それぞれの範疇の中で意見を出し合って、あるいは校正をかけて、最終的には業者から校正が上がりますので、その時点で私も見ながらそれぞれチェックを入れて対応させてもらってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから前に、せっかくの印刷物ですね、末端まで届いていないということで、欲しいという事業所に届けて配布してもらったことがあるんですけど、今はそのようなことはございませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お話の件は海水浴のデータ、去年のデータだと思います。私ども普通、情報の公開としてはホームページで行ったり、基幹となる「おしらせばん」でやる機会が多いわけですけど、いかに、どのような場所で、どんな情報が欲しいかということまで、若干、去年の場合はちょっとおくれがあったかなというふうに思います。紙ベースも非常に大事なことであります。その点に関して、ことしについては「おしらせばん」等で通知をして、個別に配布するのとあわせて、各観光協会並びに事務所を含めて、それぞれの現場に配布をさせていただいております。できるだけ市内でも、どれだけの情報が必要かという把握には、今後とも努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、指摘をさせていただいたのはパンフレットです。パンフレットが発行されても末端まで、その流れのルートが確立されていないというふうなことで、かなり国道筋で大がかりな事業を展開していても、情報紙を入れるポケットには市の発行物がほとんどないというふうな状況。これはもらわないほうが悪いという見解もあるかもしれませんが、むしろそうじゃなくて積極的にお持ちして、置かしていただくくらいの気持ちで、やっぱり片方ではあってもいいんじゃないかなというふうに気がします。

それから情報交流人口の定義でございますが、市としてはどのようにとらえて、手段としてはどのような情報で考えているのか。また、実際に市として、情報交流人口としてカウントしている人数というのはどれくらいあるのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

情報媒体としては、たくさんあると思います。1つはやっぱり印刷物、今ほどの話のパンフレットからリーフレット、いろいろな形であると思います。もう1つは、やはり今ホームページでの展開、アカウント数の確認等あると思いますけど、もう1つは、ソーシャルネットワークということで先ほども話が出ました。やはり口コミをもとにした、ウェブサイトでの情報の更新ということが主になると思います。どちらにしても大事な課題ではあると思いますけど、直接的には、今、交流人口に関して、どれだけの人たちがそこを利活用してるかという数については、正直、把握はしておりません。

4番（渡辺重雄君）

休憩をお願いします。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前10時47分 休憩

午前10時47分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

情報交流人口という定義というものを、特段、私らとしてこういったものというものは持っておりません。

ただ、実際にホームページにアクセスをしていただいた人数であるとか、そういったもののデータとしては当然っておるわけですし、平成23年度には323万7,000件以上のアクセスが、ホームページにはあったというふうに把握しております。そのほかにもツイッターというような形で情報発信も始めておまして、こちらのほうはフォロワーという形で、うちのツイッターを見ていただいている方の人数が把握できるわけでありますが、非常にまだ今現在は少ないということで、この辺についても、これから力を入れていきたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この情報交流人口の定義ですね、国交省のほうできちっと定義づけしてるわけですね。地域外に居住する人に対して何らかの情報提供サービスを行うなど、情報交流を行っている登録者人口と定義をしている。したがって、不特定多数に対する情報提供サービスではなく、個人が特定でき、何らかの形で登録がなされていることとしていると。私、ここで提唱したいのは、少しでも手応えのある広報ということで、情報交流人口の拡大、これを求めて、効果があるからということでお願いをしておるわけです。定期的に発行物を送るとかそういうことを、端的に言うと、またメールとかいろんなものの配信を、きちっと定期的にやっておるといようなものが情報交流人口に値するわけですから、きちとしたカウント。ですから登録者人口、こういうことなんですけど、再度、そういうシステムがあるのかどうか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

広報につきましては、東京糸魚川会、それから関西糸魚川会等に、会員の皆様にお出しをしているものがございます。現在ちょっとここにはデータをおりませんで、申しわけありません。

そのほかに安心安全メールという形で登録をいただいて、情報発信をしている方が現在のところ9,000人強おられるという状況であります。ただ、これにつきましては全てが市外というわけではなく、市内の人が大半かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから観光パンフレットが一般的なんですけども、函館市における調査では、この観光パンフレットから情報を取得している観光客は全体の5%にも満たないと。このことから従来の観光パンフレットの観光客の誘致は、効果的ではないと考えられるというようなコメントも出しているんですが、糸魚川市の場合は、どのようにとらえておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

確かにお話のとおりこのごろの催事を聞きますと、天気のごあいとか実施状況を含めて、非常にネット活用が多いです。ウェブで閲覧をして確認をして、きょうの朝出てくるというお客さんが多いです。実際、口コミでいろいろ話を聞きますと、ホームページで見てきましたという方向が非常に多くなってきております。

ただ、日常業務の中では、1日1通ぐらいがメールのやりとりで、1カ月後、ないしは2週間後に糸魚川へ行きたいんで、資料を送っていただきたいという問い合わせもそれなりに数があります。そのような対応については、すぐ至急資料提供ということで係で対応しておりますので、全体的にはウェブの閲覧が多いと思いますけど、まだまだ紙媒体も現実的にはまだ残っている。ただ、中年以降ですね、紙面で取り寄せる人たちは、正直なところ中年から高年者が多いという実態になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私もパンフレットというのは必要だというまだ人種でありますけども、先ほどのお話のようにインターネット上で、かなりいろいろ情報が行き交っている時代であります。パンフレットの請求もインターネット上からできるようにはなっておりますけども、このデジタルカタログというものをやっぱりインターネット上で構築して、実際にこのパンフレット、カタログをペラペラもうめくっているような形でやれるようなコンテンツを、きちっと整備したほうがいいんじゃないかな。それ

で、さらに紙媒体のものが欲しいという場合は、請求をしていただくというような形で、このシステムをぜひ導入していただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

今ほどのデジタルカタログという形での情報提供をとということですが、今後、ホームページのつくりかえといいますが、そういった機会にまた検討をさせていただき、そういった提携についても考えていくべきかなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今デジタルカタログというご指摘、ご意見をいただきました。そういったところをどういうふうにやっていけるのか。今言われるように本当に紙媒体も、やはりなくてはならないものでございますが、それだけという部分ではいけないわけでありまして。ホームページから引き出せるもの、また、今言われるような特筆するものでも、私は効果があれば取り組みたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、市長がおっしゃるようにパンフレットと全く同じものが、必要であればそこからプリントアウトもできるわけですし、また、さらに立派なものが欲しい場合は請求して、取り寄せるという形ができるわけですので、ぜひ早目に対応していただきたい。

それから柏崎の「旅ナビ柏崎」というのがあるんですけども、これインターネット上で自分が回りたい行程とか内容などの条件を組み合わせ、しおりにできるような仕組みがあるんですね。地図とか駐車場、食堂、それから交通機関など含めてパソコン上で組み合わせが可能になるので、あたかも旅行会社が企画してくれるような行程表がきちっとできるわけですね。

したがって、ここのジオパークの24サイトのそういう周遊とかそういうものを、いわゆるインターネット上で行程表がきちっとできるというのは、物すごく魅力じゃないかなと私は思うんですが、この辺の導入もぜひお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

普通、私も旅行会社とやるときは、プログラムを提案させていただきます。もちろん、中には日程表ということでもやるわけです。旅の楽しさは、1つはやっぱり今話のとおりカタログとか

パンフレットを見ながら、なおかつ行き先のデータを集めながら、そこで自分がスケジュールを組むというのは1つの楽しみかなというふうに考えております。

そういう意味で柏崎の事例、1つ研修材料とさせていただいて、今後、研修ないしは取り組めるかどうかも含めて、参考にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

まずは多くの人たちは、この情報によって行動を起こすわけでございますので、効率的でかつ効果的な方法、それから手応えのある方法を、ぜひ採用していただきたいというふうに思います。

次に、4番目のふるさと市民制度の導入提案でございますが、私、平成22年12月議会の一般質問でも導入提案をさせていただきました。そのときは準市民制度というような形であったんですが、今回のふるさと市民制度と同じものであります。その折には答弁の途中で、検討をするというふうなお話ございましたが、その後、検討されたものかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、非常にジオパークなどで、いろいろ情報発信することが結構多くなっておるわけでございまして、ふるさと寄附金が結構ふえておりまして、そういったところを情報提供させていただきながら、今進めさせていただくのが一番早いのかな、また、確実なのかなという形でさせていただいております。そのような制度をするにしても、やはりまたいろいろと新たな展開をしなくちゃいけないんですが、はっきりもうそれでつながっておるところが、一番確実なのかなということで、それを中心にしていきたいと思つとる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市長おっしゃるように特定多数で、私が申し上げているふるさと市民制度に類似したものを、既に幾つかの名称でやっておられるということでございますので、それはそれで本当にいいというふうに思うんですが。

1つ参考にお話し申し上げておきますが、8月に舞鶴にいる友達が、私のところへ突然訪ねてこられました。40年ぶりぐらいなんですけども、いつも糸魚川市のホームページを見ています。糸魚川市のことを応援してるんだというふうに言っておりました。今回、1週間ほどの滞在期間に、ゴルフ場でゴルフをしたり、また、市の施設をかなり回られたというふうなことです。非常に詳しく感想を述べておられました。帰りに私が持っていた「校歌に聴くふるさとへの想い」というCDを聞かせてあげましたら、非常に大喜びいたしまして口ずさんでおりました。毎年来たいというよ

うな言葉を残して帰っていったんですけども、このふるさとを思う気持ちというのは、ふるさとを離れている人には非常に我々にもう考えられないほど大きいものがありますし、応援するといいますが、ふるさとは今どうなっているのかなというふうな、インターネットができたもんですから、その情報も刻々非常に最新のものが入っているんですけども、こういう方たちを歓迎する制度、やはり登録して応援をしていただくというふうなことで、何かやっぱりそういう方たちに応えてあげよう制度はやっぱり欲しいなという気持ちが私するんで、ぜひこのふるさと市民制度、もう一度お願いしたいんですけども、制度化していただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろいろ今お聞きさせていただくわけですが、ある程度、情報提供しなくちゃいけない。インターネットみたいなもので気軽に入れるものがあるわけですが、どうしてもやはり我々は今、少し深いおつき合いをしたい、深い情報を流したいということになってくると、どうしても資料というものが伴う部分でございまして、その財源的なことも考えると、どこかでやはり財源も少しつながっていただいたらありがたいということもございまして、そのような話になったわけですが、確かに今使ってる名前では、そういった気持ちのやりとりが、なかなかうまくいかない部分もありますので、今やってることの名称も少し検討しながら、そういったところにも入れるかというのも、これからよく考えなくちゃいけないのかなと、今、少しとらえたわけですが、またその辺も少し検討させてもらいながら、今あるやつをどのようにしていくか。ただ数をふやすと、どうしても何かばらばらのものが出てしまうおそれがありますので、対応する制度の数をふやさないようにしながら、何とかまとめていくような方法を、ちょっと考えていかなくちゃいけないのかなととらえさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市長がおっしゃるように、あんまり大上段に振りかぶらなくても、月2回ぐらい市長のメールがふるさと市民登録者に送れるぐらいでも、市の情報はかなりできるんじゃないかなというふうに思いますので、あんまり大上段に振りかぶりますと、予算やいろいろなものが出てきますので、それぐらいで始められたらいかがですかね。

次に、5番目の来訪者のマナーについてであります。こちらのほうも山菜とりに、県内外からかなりの人たちが見えておられます。そのほとんどの人たちは許可を得ないで山菜をとっておるわけで、中には栽培をしている山菜までとっていかれると。ことしも実際、警察による取り調べを受けた事例というのはあります。もしその辺も含めて、全市的にキャッチしてる情報がありましたら、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今お話いただきましたような山菜のマナーの悪さという部分は、お聞きはしておりますけども、直接市のほうに苦情なり相談はまいっておりません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

非常にこれも難しいんですね。交流人口の拡大ということで、よそから来られる方を歓迎すると言いながら、なかなかそういう個々の事例では難しい面があると。

これは1例なんですけど、ことし5月27日付の信濃毎日新聞によりますと、山菜シーズンを迎えた北安曇郡小谷村で、村と村観光連盟が6月、これまでの部外者の立ち入りを禁じてきた村内2つの共有地について開放し、有料のワラビとりツアーを開くことになった。毎週、勝手に山菜をとられることに頭を悩ました地元側が、村民による山菜や案内人制度で、山菜とりと地元利益の双方を保護する。高齢化に伴い手間のかかるルール違反者の監視が困難になったからだ。県内では下高井郡山ノ内町でも、立入禁止から有料化による共有地の活用に転ずる動きがあるというふうなことが書かれておりましたが、どうでしょうかね。交流人口というふうなものをつなぎ合わせて、参考にした取り組みというのは糸魚川ではできるかどうか、可能性をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

類似するかはともかく、現在、この2年間経過しましたが、うちのこの探検ツアーのときにNツアーさんに協力いただきまして、プログラムの1つに山菜とりを地元の関係者、並びに管理されている土地にしっかり一緒に入りながら、一定量を確保するような形でお客様に楽しんでもらっています。非常に好評で、かなり定番となるようなお客様も毎年みえております。

これが1例として、やはり全地域に、市内に適用できるかどうかという部分もあります。1つには管理体制なり、管理として経費もかかってくると思いますので、いろんな面から少し共有地、ないしは市が管理する土地もありますので、可能かどうかという部分も含めてもう少し検討してまいりたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市内でも、どういう名目で料金をいただいているかは別といたしましても、2カ所ぐらい具体的

にやっておると今把握いたしております。

私、今シャルマン火打スキー場においても市有地をどのように、地元の皆様方と何か開放してもいいんでないかなというような少し話も出ておる状況であるわけでございますが、まだ具体的にはなっておりませんが、それにつきましても、今、課長の答弁にもありましたように、やはり何らかの形で地元の方がつかないと、その境もわかりませんし、めちゃくちゃにとられても、乱獲して資源の枯渇する部分もございますので、そういったやはりマナーも指導しながらやらないとだめだろうというのが根底にもありますので、その辺は地元の皆様方とどのように進めていくかというのは、これから大きな課題で、そして例えば木地屋の皆さんにお話聞きますと、何もとらないと、またそれが密集して、逆に植物の絶滅のほうにもいく部分もあるので、ある程度、間引きというものも必要だという話もあったりして、非常に難しい部分もあるわけでございますが、地元の方々とうまくそういったものが調整ができれば、私は可能なことになるんじゃないかなというふうにとらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ぜひ検討していただきたいと思うんですが、ちなみに小谷村の場合はツアー料金として、1人3,000円なんだそうです。中身はガイド料と昼食補助と採取料金、6月にこしては6日間、6回の日帰りツアーを行ったと、非常に好評だったというふうな担当からお話をいただきました。

それから海岸の釣りに関してなんですが、こちらも港湾区域は釣りの禁止区域になっておるんですが、釣り人にとって魅力の場所なんでしょうか、規制をくぐって毎日釣りをされてる人がいるということなんですが、これは一般の場所よりも危険があるということも聞いておるんですが、最近の状況については、どういうふうにとらえておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

市が管理します漁港におきましては、ごみの不法投棄看板、それから立入禁止区域の看板等を設置しながら、それぞれの漁協と協力をしながら巡視パトロールを行っております。

また、県のほうの対応といたしましては、漁港の監視員といたしまして、市内で4名の監視員を設置しながら、そのような対応をしておるということをお聞きしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この件でも観光協会、それから漁協組合、県の港湾課ですね、いろんな立場から聞いてみたんですけども、この禁止区域内での釣りに関して、いずれも困ったことですよと言いつつ、半ばやむ

を得ずというふうな状況で、問題は、この地域への影響と事故に関してなんですが、特に事故の場合は、陸上と違って大変だと思うんですね。違反場所でのこの事故の責任問題といいますか、捜索等も含めて自己責任で済むのかどうか。一旦事故が起きた場合、どう対応しておられるのが実情かどうか、お聞きしたいと思うんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

起きた場所が港内であったり、また、あと海水浴場であったり、一般の海岸であったりいろいろするわけでございますけれども、当然、施設管理者との連携をとりながら、また海上保安庁等と連携をとりながら、個々の事案に適切な対応をしてるというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

普通はこの海上保安庁と地元の漁協から、捜索や救助活動にも当たられると聞いたんですが、この費用は請求されないというようなことを聞いたんですが、本当なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

基本的には請求しておりません。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前 11 時 12 分 休憩

午前 11 時 12 分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

消防長（小林 強君）

失礼いたしました。

例えば姫川港であれば、新潟県になります。そんな形でそれぞれの管理者において、我々は救助が任務でございますので、連携をとりながら対応してるという現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いずれにしましても糸魚川市は山も海も非常に魅力がいっぱいのところであるわけですね。山菜にしましても釣りにしましても、交流人口拡大対策の素材の1つであるというふうに思うわけですが、新しい角度でとらえて、この地域住民の迷惑にならない形で生かし方も工夫する必要があるんじゃないかなというふうに思っております。

行政の皆さんにおかれましても、一緒に考えていただきたいことをお願いして、一般質問を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩といたします。

再開を11時25分といたします。

午前11時13分 休憩

午前11時25分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、野本信行議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。〔22番 野本信行君登壇〕

22番（野本信行君）

新政会の野本信行です。

発言通告書に基づき質問を行います。

1、1市2町合併後の新糸魚川市の総合計画に基づく評価と課題について。

合併後まもなく8年を経過しますが、総合計画に基づき「総合計画後期基本計画」がスタートし、これまで取り組んできた諸施策の「更なる前進」を決意しております。合併後7年を経過し、この間、市政を取り巻く環境の悪化などもあり、市民の合併後の期待に対し、それぞれの立場から厳しい評価が出ていることも事実であります。

こうした現状から、市民として合併した利点、更なる課題について、的確な理解をできるように以下の事項について伺います。

(1) 人口減少化の推移と歯止めがかからないことへの不安について。

当市に起因する分析と対策について。

今後の具体的推進事業について。

(2) 少子化対策への根本的事業推進について。

当市の根本的事情は。その具体的取り組みは。

(3) 高齢化と要介護者増の推移と対策について。

在宅介護の実状（要介護者数・在宅介護者数）は。

施設介護希望者数と受け入れ可能者数について。

行政支援には限界があるも、市発展の基本であると思うがどうか。

職員に専門官を配置し短・中期の支援体制の強化推進をすべきと思うがどうか。

(5) 健全財政運営と市民負担増の軽減策について。

合併に伴うスケールメリットによる負担の軽減化はどうなっているか。

市の統一料金化による負担増の現実について。

職員の減員化と外部委託の拡大について。

(6) 新公民館体制による運営と地区活動、地域づくりプラン策定による活動の展開について。

それぞれの主旨が各地域に浸透しているのか。

市職員全体が理解しているのか、地域での役割は。

以上で1回目の質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前11時12分 休憩

午前11時12分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

22番（野本信行君）

大変失礼いたしました。

(4) 市内産業を中心とする振興と雇用拡大支援について。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

野本議員のご質問にお答えいたします。

1点目及び2点目につきましては、人口減少の要因として自然的要因と社会的要因がありますが、自然的要因は、死亡者数が出生者数を上回っていることによる減少であります。

その対策といたしましては、結婚を希望する男女が出会えるきっかけづくり、不妊症治療費助成、子育て支援の充実などを実施いたしております。

また、社会的要因は、転出が転入を上回っていることによる現象であり、子どもころからの地域への愛着形成や市内での働く場の確保など、転出を抑え転入をふやす取り組みを進めております。

3点目につきましては、24年6月1日時点で、要介護者数は3,134人、うち在宅介護者数は1,892人であります。

特別養護老人ホームの入所申込者は、24年7月1日現在で604人であります。定員は378人ですが、ほぼ満床の状態であります。

4点目につきましては、市内企業の競争力の強化と新規企業の誘致に当たり、国、県及び民間と連携をいたした支援体制をとっており、専門の職員配置については昨年度から、商工農林水産課に企業支援相談員を配置いたしております。今後も企業支援のワンストップ体制の強化に取り組んでまいります。

5点目の1つ目につきましては、経常経費を削減し、行政サービスの維持、充実や、新たなまちづくりに活用し、市民負担の軽減をはかっております。

2つ目につきましては、合併後、3地域で異なった料金の統一化を進めてまいりましたが、合併前より負担がふえたものがある一方、負担が軽減されたものもあり、また、変わらないものもあります。

3つ目につきましては、職員数の適正化を進めながら提携型業務の外部委託、指定管理者制度を拡大してまいります。

6点目の1つ目につきましては、私の地域づくりへの思いもお伝えしたいこともあり、今年2月に3地域へ出向き、自治組織への代表者を対象といたしました説明会も開催いたしております。また4月以降、順次、地域担当者が各地区に出向き、役員の皆様と協議をさせていただいております。

2つ目につきましては、今年3月に職員を対象とした研修を、本庁及び両事務所で開催をいたしております。職員の地域での役割は重要かつ大きいものと受けとめており、日ごろから居住している地区の活動に積極的にかかわるよう話しかけておる次第であります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

1番から順次お聞きしたいと思いますが、1から5番まで、見方によっては必ず関係する場面といいまいしょうか、出てくるわけですが、そういう意味では若干重複する場合もあるかもしれませんが、答弁の際にはご容赦をいただきたいと思ひます。

まず（1）の でございますが、自然減少、社会減少、十二分に理解をしておるところでありますけども、しかし、そういう減少を、何とかして少しでも食いとめるような具体的な施策というものを、やはり市全体で取り組んでいかなければ私はならないんだろうと。もちろん特効薬はあるわけではございません。大変な努力をしていかなければならないと、このように思ひわけですが、そういう意味では後にも出てきます、やはり地元で就業できる場所がないと、どうしても出ていかれるし、転出してしまいますし、また、近くに就職場がないということ等から、結婚も晩婚型になったり、結婚しても出生数が少ないとか、いろんな事情が絡み合っ、残念ながら毎年毎年、人口が減少しておるんだろう。

何年のときの実施計画でしょうか、今後の人口の推移として、合併前は、10年後には約4万3,000人、それを何とか4万4,000人に食いとめたいという見通しを立てておるわけですが、もう2年しますと4万5,000人は切ってしまうのではないかなど。大体毎年800人前後減少しておるような状況ですので、そういうこともある程度、2年、3年、5年を考え合わず中で、もう少し具体的に市としてできるような施策というものはないのでしょうか。その点、関係部署でお考えがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にこれは1つ1つの項目を見ますと項目的に挙がるんですが、本当にそういう単純なものではないんだろう。みんな挙げたものは全て複合的になったり、関連するものであろうかというような感じをするわけであります。

そういう中で、今、挙げておる我々この事業、お答えをさせていただきましたが、それが本当に今、議員ご指摘のように特効薬でもないわけでありまして。しかし、さりとしていろんな面で手だてをしなくてはいけない中において挙げておりますし、また、そのほかにも今行っておる、行政の各般にわたって事業というのは、みんなそれにつながるんだろうと思ってる次第であります。なかなか思うような数字にならないのも実情であるわけでありまして。

どのように歯どめをかけるか、ふやすというのはなかなか難しいんですが、歯どめをかけたいということすらも、なかなか難しい状況であることはご承知のとおりと思われるかもしれませんが、今のところは本当に答えると言われれば、本当に難しいという一語に尽きるとしておるわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

1番、2番にそれぞれ共通するところでありますが、今も市長の答弁にあったとおり、また、私の認識もお伝えしたとおり、なかなか難しい問題であるわけでありまして。

しかしながら、先ほど来から質問が出されておりましたようなジオパークの今後の発展というようなものを考え、また、当市に住んで本当によかったという、今、育児期間の若い子どもたちが将来成長したときに、ああ、やっぱり糸魚川で就労して、そして長生きしたいなど、こういうことにするためには、私も特段の提案、施策はないんでありますけども、他市の例等を引き合いにしながら、先ほどの市長の答弁のほかに例えば担当課としては、あるいは関係する課として、どんな議論をされておるのか、ちょっとお聞かせ願いたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどご指摘のように、だから何も打たないのかということではございません。今、我々が進めておる事業というのは、全部それにつなげたいという思いで今進めさせていただいておりますし、特に、やはり地域愛形成をしっかりしていきたいということが一番の、ちょっとスパンが長くかかるかもしれませんが、それに向けて進めさせていただいております。

特にジオパークの理念というのは、そこにつながるものもあるわけでございますので、そういったところ、交流人口拡大もさることながら、やはり教育という、またそういったところにもしっかりと位置づけをしていきたいということで進めておりますし、また、細かい事柄につきましては、各担当からも説明させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほど来、市長が申し上げておりますように、人口減少対策につきましては、総合計画の各般にわたるいろいろな施策を組み合わせながら取り組んでおるわけでございまして、健康福祉の分野、あるいは教育の分野、産業の分野、それらの各分野が連携する中で取り組みをいたしております。

働く場の確保という面では産業振興の面で、市内の企業の支援、あるいは新しい企業の誘致ということでの取り組みを実施いたしておるところでございますし、また、結婚支援ということでは出会いの創出事業、あるいは縁結びコーディネーターの事業というような形で、出会いの創出を支援してるところでございます。

また、子どもを産み育てやすい環境づくりというようなことで、保育費の軽減の取り組みとか、あるいは子どもの医療費の助成とか、そういうような形で取り組みをいたしておるところでございます。1つずつ挙げればたくさんの事業があるわけでございますけれども、それらを総合的に取り組みながら、総合計画の取り組みの中で人口減少対策に取り組んでいきたいというふうに考えております。

いずれにいたしましても、即効的な効果は、なかなか1つの事業ではございませんが、今後とも創意工夫しながら、事業の取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

今ほどの教育についてでございますが、小中学校ともふるさと学習、ジオパーク学習ということで、地域の皆様との交流を含めながら、それぞれの学校の地域の特色を肌を通して、体験を通して学習を積んでまいっております。こちらについては徐々に、そういった効果があらわれながら、ふるさとを愛する気持ちが醸成されているものというふうに考えております。

もう1点、少子化についてでございますが、今ほどの部長の話につけ加えをさせていただくというところでございます。

これまで産み育てやすい環境づくりということで取り組んでまいりました。当市の合計特殊出生率というのがあるわけでございますが、平成17年度におきましては1.39、県は1.34、国が1.26となっております。これが平成22年度になりますと、糸魚川市が1.75、県が1.43、国が1.39ということで、この合計特殊出生率が2.07で水準が維持されるという指数になるわけでございますが、糸魚川市につきましては、県や国よりもこの指数が高くなってきているということでありまして、1人の女性が産む子どもの数が多くなってきているということで、これまでの取り組みが、一定の成果につながってきているのかなということを考えまして、今後も産み育てやすい環境づくりに、より一層努めてまいりたいと考えているところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

2番目のほうに先に答弁をさせていただいたんですけども、いまして出生比率がアップしてきると、このようなお話であるんでありますけども、例えば平成17年と22年、これは国勢調査のデータなんですけども、やはり年少者の数が、五、六百人ずつ減っておるのが事実なんです。

平成17年と22年で比べた場合に、約600人減っておるというデータがあるんでありますけども、そういうものと今の比率との兼ね合いで、ちょっと私、正確な関連はわかりませんが、ただ、残念ながら例えば私の家の周りを見ても、もう小中学生もいない、いわんやおぎゃあ、おぎゃあと泣く赤ちゃんの声すら聞かないという、そういうのが地域全体に広がっておると、それが1つの人口減少の要因になっておる。

なぜそういうふうになるかということになりますと、これはなかなか原因については私は難しいと思います。それぞれの家庭事情、それからお二人の将来に対するお考えとかいろいろあると思うんです。

ただ、先ほどもちょっと市長の答弁にもありましたけども、やはりここにすばらしい産業が形成をされておるとするならば、ああ、我が子をつくって、あの会社、あの事業にという、そういう夢というようなものが重なって、じゃあ1人よりも2人子どもをつくりたいなど。平たく言えば、そんな感じを持てるような糸魚川の社会に何とかしてならないものかなというふうに実は考えて、今回、ご質問をさせていただいておるわけですが、繰り返しになりますけども、残念ながら特効薬はございませんので、いろんな事業施策をやるときに、この人口というものも常にベースに置いて、いろいろと施策を講じていっていただきたいなというふうに思います。

次、2番目の少子化の問題でございますが、今も既に出ておったわけでありまして、小中学校の段階で、こういう関連の教育というのは、皆さんが将来社会人になった場合に、どんどん子どもをつくってくださいよというような関連的な何かの学習っていうのはないんですか。また、そんなことを先生は言ってはならんという範疇になるんでしょうか。参考までに、ちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

学校では性教育というものも計画的に実施しておるわけですが、性教育というのは、正しい性教育をいかに学ばかというところでありまして、しっかり産み育てるということも、その一環ということで学ぶ機会の1つにさせていただいております。その他、理科学習の中に子どもの誕生という学習もあります。そういったところで、子どもがどういうふうに誕生し、成長するかという学習もしておりますので、そういったことの中で出産、育児の大切さを学ばせておるといふふうにとらえております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

先ほど私、3区分にした人口の推移、ちょっと触れましたんですけども、それで出生比率云々のデータをお聞かせ願ったんですが、人口に占める年少者の割合が、これは国勢調査の結果なんですが、12年が13.2%、17年が12.4、22年が11.7と、こういって比率が少なくとも減ってきておるのは、これは間違いないと思うんでありますね。そういうこともやはり今後の糸魚川市の本当の意味の飛躍、発展ということを考えた場合、次世代の優秀な、健康な子どもたちが1人でもやっぱり多くいてくれたほうが、高齢者の皆さんも安心して次のステップへ上がっていきけるんだろというふう思うんでありまして、そういう観点で、この少子化比率を何とかという、これも歯どめをかけるというような観点から、名案、取り組み、ございませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

結果的には、先ほども答弁させていただいたように難しいんですが、やはりここで産み育てることの本当に優位性みたいなものができて、おいでいただくことがいいのかなということで、できる限りいろんな面で、ご支援をさせていただきたいということで進めてまいっておりますし、また、教育環境も整えることが大切なのかなという形で、取り組まさせていただいておりますが、結果はなかなかついてこないのも実情でございます、許される財源の中でというところがやっぱり冒頭につきますから、なかなか難しいのかもしれませんが、しかし、そういう形をしっかりと位置づけることも、やはり大きな事柄だろうと思っております。当然、働く場があってということも、当然それにつけなくてはいけない部分でございますので、そんなところを他市に先駆けて、他地域に先駆けて、構築することが大切だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

そういう意味におきまして1番と2番目は、今現在、取り組んでおられる諸施策については、その効果というものをあらわしておることは、私も事実だろうと思います。その上に、さらに糸魚川市にマッチした何かいい取り組みがないものかどうか。庁内全体で今後とも、それぞれ関係する事案の検討の折々に人口減少を何とか歯どめ、少子化を何とか歯どめ、こういう頭の中で、ひとつお考えいただきたいというふうに要望をさせていただきます。

3番目の高齢化と要介護者の関係でございますが、先ほど市長のほうから数字を言っていただきました。高齢化が昨年度で33%台でしょうか、いずれ35%を超えていくという、目の前にきておるかと思うんでありますが、全員が元気であってほしいわけでありまして。

私ごとで恐縮でございますが、きのう田海地区で敬老会がございまして、約100名の方々がお集まりになられてお祝いをし、懇談をされておったんですが、みんな本当に元気そのもの、笑顔がまたすばらしい、隣同士の会話もすばらしい。そして帰るときには、ちゃんと3人ないし5人組みになって、時には手と手を結んで出ていかれる方、背中に手をかけて転ばないようにというような、そういうような光景を見ていますと、本当に長寿社会でも結構なんだと、楽しいんだという一面を昨日、実は痛感をしたわけでありまして、一方では、支障等があって来れない方々も、先ほどの比率からいってあるわけでありまして。

そういうことを考えていった場合に、これまでも一般質問でどなたかも聞いておられるんですが、国も極力在宅介護を中心にして、この高齢者の社会福祉というものを進めていこうというふうに言っておられるんでありますけども、それが可能な範囲であれば、当然皆さんそうされると思うんです、家族で、あるいは夫婦でと。しかし、そうはいかない段階になってきたときに、さあ、どうする。

そこでデータとしては、今市内には施設入居希望者、約600人強おられるということなんですけども、現状ではどうしようもないわけですけども、そういう方々に対して現時点で、市として最大限ご支援、取り組み、どのようにされておるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

先ほど答弁いたしましたとおり、特別養護老人ホームの入所希望者につきましては今現在、604人いらっしゃいます。その中でも在宅で、要介護度の高い4、5の方につきましては、120人と把握しております。また、第5期の計画では施設整備も予定しておりますけれども、介護保険料がかなり高くなっていることから、今期の施設整備については慎重に検討しなければならないというふうに考えております。

また、その要介護度4、5の方が、どんなふうにして生活をしているかということでございます

が、在宅の方につきましてはケアマネジャーがついております。ケアマネジャーの方と家族の方と相談する中で、デイサービス、ショートステイ等のサービスを利用しながら、在宅生活をしているというふうに理解しております。

また、入所の待機者につきましては、施設ごとに管理をいたしておりますけれども、二、三カ月おきに、その順位を判定する会議がございますので、その段階でどうしても緊急度が高い方については、順番が高くなるというふうにお聞きもしております。そういう在宅のサービスを使いながら、入所をお待ちになっていただいているというのが現状でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

そういう状況につきましては、私もある程度承知をしておるつもりでございますが、先ほど来から何遍も言っておりますとおり高齢化が進捗していきますと、当然、該当者が、私はさらにふえてくるだろう。全ての方々が在宅介護で済めば、それは結構なことなんですけども、障害度に応じてそうはいかない、施設入居が必要だと、こういうことも当然ふえてくることを前提にした場合に、確かにお金がありません、場所がありません、介護士等なかなかおりません等々、いろんな困難な状況にあることも十分承知しておるんでありますけども、そう言っても何とか市としてやれる最大可能なアクションというものを、やはり計画的に私はとっていかなくてはならないんだらうかと、こういう気がするんでありますけども、市長、いかがでございましょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに今言ったような数字、またさらに団塊の世代が長寿社会に入っていったるわけでございまして、そういったときにやはり施設に対して、または在宅に対してどのように進めていけばよいかというのは、やはり大きな課題であるわけでありまして、その辺を今これから第5期の中で、しっかり詰めていかなくちゃいけないと思っております。

また、今施設へ入られている方については、なかなかこれは難しい部分があるかと思うわけですが、今健康でおられる方々に対して施設へ入らないで済んで、健康でいられる方法というのも大切な事柄であるわけでございますので、そういった手だてもしておるわけでございますが、さらに拡大をしていきたい。健康体でおられるような活動に対しても、しっかりやらなくてはいけないと思っておる次第であります。

そのようなことで、これも今ほどの少子化と同じように待ったなしで、いろいろな対応を今進めていかなくちゃいけないという状況でおるわけでございますので、そういったところを糸魚川市は、どちらかというが高齢化の高い地域でございます。よその地域よりは先駆けて、長寿社会へ入っておるわけでございますので、そういった部分についてもしっかりとらえていきたいと思っておるま

す。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

要望みたいになるかもしれませんが、今、市長もおっしゃられたとおり、これから高齢化社会のメンバーに入る人たちも含めて、健康づくりには何を、どうすればいいのかということ私をもう少し各地域に、粘り強い取り組みをしていただいたほうがいいのではないかと。

公民館によっては公民館で高齢者向けの簡単な健康体操、これをやってお昼になれば簡単な持ち寄り食事会、それで会話もしてという、そういうものをとところによっては月3回くらいやるとる場所もあるんですが、そういう市内の事例も踏まえて、そういったいいことは全市的に展開していくような、そういう取り組みをして、できるだけ障害をお持ちになって在宅で苦労せないかん、心配せないかん、家族ももちろん心配せないかん。そういうことが1人でも少なくなるような、そういう努力をしていただきたい旨お願いをして、3番目を終わりたいと思います。

議長（古畑浩一君）

野本議員の質問の途中であります、昼食時限のため暫時休憩とし、再開を午後1時といたします。

午後0時00分 休憩

+

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き野本議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

それでは4番目に入りますが、これもなかなか難しい問題であるんでありますけども、一応用意いたしました質問をさせていただきたいというふうに思います。

今、市内の各産業界では必死の経営努力を行って、事業継続に努力をしておると思うんであります。今後の市内の事情を考えると、例えば新幹線の工事が終了しました。あるいは、また公共施設の耐震化工事が終了しました。こういった公共事業を中心として考えて減少をしていく。一方では、予測される今後のガス水道管の修理、修繕工事、こういったものが新規としては出てくると思うんであります、いずれにしても総体的には仕事量が縮小されていくということが十分予測されるかと、こういうふうに思います。

そういう観点から、行政としては産業振興への直接、間接的な支援策というものについては、限

界があるとは思いますが、これまでの取り組み、それから現状の環境というものをとらまえて、どのように精いっぱい努力を、具体的な取り組みをされていこうとしておられるのか、その点につきましてお聞きしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

公共事業の縮小に伴うというご質問かと思っておりますけれども、平成22年が72億円ほど普通建設費がございました。これは普通会計ベースでの数字でございます。今後、市のほうとしましては交付税の削減、それから合併特例債等の期限の問題等々、平成27年問題ととらえておるわけでございますけれども、その27年には普通建設費が3割弱の20億円まで落ち込むというふうな中期財政計画をとらえておるわけでございます。

そのような中、今後、建設業者等が他の分野への業態転換の促進が課題となっているんじゃないかというふうにとらえております。そのような中、政策の方向としましては既存企業の競争力の強化、あるいは既存企業の経営の安定化の支援、それから新たな企業誘致というふうなところを、重点的な施策として進めてまいりたいというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

これまでもどなたの質問に対しても、大体、今課長が答弁されたような施策に取り組みますと、こういうお話であったかというふうに思います。私自身もそういう認識は持っておるわけでありまして、残念ながら正確な数字ではございませんが、当市における就労人口を申し上げればいいんですが、ちょっとデータとしてないんで、15歳から64歳の生産年齢人口の比較でございますけれども、12年から17年に約3,350人のダウン、17年から22年には約2,000人が就労人口から減っておると、こういう減少基調の数字を見てみても、残念ながら当市における産業振興がどうなのかということになりますと、結構厳しい状況に置かれているなということが言えるのではないかと思います。

さりとて先ほどの答弁にもございましたけれども、公共事業の推進にはいろいろと限界があることも、これはまた事実であります。ならば民間の企業として、みずから生き残るための生産体制をどのようにして構築していくかということになりますと、これまたいろんな意味で大変な要素がある。そういうことで、今、少しずつじり貧な状況になってきておるのではないかなという気がするわけでありまして。

そこで にございますとおり、この際、より専門的、プロフェッショナルな、そういうスタッフというものを長期にその仕事に従事してもらい、そういう専任体制というものを配置をして、そして将来の糸魚川市の産業の活力、活性化に向けた取り組みをするという、そういう考え方について市長、いかがでございましょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに非常に目まぐるしく変わる経済情勢、本当にこれではやく1つの長い景気不況のトンネルを抜けたと思ったときに、世界同時不況といういろいろなものが起きる状況もあったわけでごさいます、そういうことを考えたときに、それを先取り、また、そういった情報を収集しながら1自治体、基礎自治体が対応できるかという、非常に大変な事柄であろうかと思うわけがありますし、また、今までもいろんな面で情報収集をしながら、また市内企業、また市民の皆様方とそういったことを進めてくる中において、ややもしますと批判的に、行政の言うものと反対のことをすればいいというような、ご批判もいただいているようなところもあったわけがあります。

そういう中で、どこまでできるかと言いつつでも、我々はやはり糸魚川市の発展、地域振興に対してはしっかりかかわって、また、その中で連携をとっていかなくちゃいけないという役目もあるわけでごさいますので、今ご指摘のような部署を考えながら進めさせておられます。

やはり専門的になるわけでごさいますので、通常考えるような公務員の異動というようなことでは、やはりうまく熟練のような対応ができるわけじゃございませぬので、やはり少し長くしなくてはいけないなと私も思っている次第であります。そしてやはり専門的に知識を持って皆様方とともに連携をとらないと、企業の皆様方というのは、みんなエキスパートでごさいますので、そういった人たちとやはり連携をとるということは、行政職員もやはりそれなりの知識を持たなくてはならない部分でごさいますので、そういった方向では、今、議員ご指摘のような形になっていかなくてはならないと思っている次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

専門官と称するかどうかは別にしても、そういう意味合いの職員の配置というものにつきましては、ぜひ前向きに取り組んでいただきたい。そうすることによって市内の各企業といいますが、業界の皆さん方が自分たちでも努力して、いろいろとどうすればいいかということの模索はすると思うんですけども、客観的な立場で市のほうから、こういうケースもあります、ああいうケースもあります。必要によっては、それにたけた方を招聘をして講演会をやるとか、そういうふうにするような形の攻め方を、ぜひ進めていただきたいと思いますというふうに思います。

ちょっと時間もありませんので、5番にいきます。

健全財政運営につきましては、毎回のように私は取り上げて恐縮でごさいますけれども、先ほど来からもありますとおり、27年以降の当市の財政事情というものを考えたときには、大変厳しいものが予測されるわけがあります。同時に、また私自身も申し上げておられますが、いろんなことへの行政としての手当てをしてくださいと、そういう要望が一方では限りなく出てきておるし、今後出てくるであろう。

そういう兼ね合いの中で、いかにして効率的で、しかも市長がよく言われます選択と重点という、

そういう態度で、姿勢で今後の行政の財政運営をしていくか、大変重要なことであろうというふうに思います。本当は細かくちょっとお聞きしたい点もあったんですが、そういう状況の中で一言だけ。

冒頭にも申し上げたとおり、合併前に、スケールメリットによっていろんな諸経費、いわゆる市民としての支払わなければならない利用料金であれ、負担金であれ、そういったものが拡大されることによって、軽減といいましょうか、より効率的に、皆さんからも理解していただけるような、そういう運営ができますよという説明が、当時、盛んに行われておったんですが、そういうことからして、主なもので結構ですが、合併前よりもトータル的に、利用料金等が下がった項目があれば1、2紹介、逆に上がったものがあれば1、2紹介していただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

合併に伴う使用料とか手数料等の市民負担に伴う料金体系の関係につきましては、全体では144項目挙がっております。現在、12月ぐらいを目途に合併後の分析ということで、これらの項目も含めて中間取りまとめの作業を進めている段階であります。

全体的な傾向としては、あくまでも中間でありますけれども、合併前と変わらないという評価が約半数、50%です。それからサービスが上がって、あるいはまた負担が軽くなったという部分については35%程度です。逆に、行政サービスが悪くなった、あるいはまた負担がふえたというのは、全体項目の中の15%程度で、今、中間取りまとめをしている段階です。

これら個々については3地域別に、それぞれの担当課で評価を行う方式で現在進めているところでありますので、もうしばらくこの点につきましては、お待ちいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

個々のものにつきましては今回は省略いたしますが、いずれにいたしましても市民の皆さん方が、ああ、こういう利用料金であれば、こういう使用料であればやむを得ないねとっていただけるような金額以外のサービス、これにどういうところにおいても心がけていただきたい。職員のそういう対応といいましょうか、サービスといいましょうか、そういうものによって場合によれば、もっと料金上げてもいいですよということだって、私はあり得ると思うんです、市全体の財政事情を考慮したとき、そういう意味でも職員の皆さん方のサービス、これに心がけをしていただきたいというふうにお願ひしときます。

6番目ですが、これはたしか3月議会でも、私、一般質問したような気がするんですけども、地域プラン策定を地区はしなくていいですよという、プラン策定の文書の中にしっかりと書いてあったことからして、私3月に、じゃあしなきゃしなくていいんですかと、全市統一した形の取り組みじゃないんですかという趣旨で質問した経緯があるんですが、それはいいとして、その

後の現時点における進捗状況として例えば地区何カ所、新しいプランに基づく活動体ができたら、あれば数を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

本年3月以降というのは4月以降の動きといたしまして、現在、地域別に申し上げますと、能生地域では1地区、上南地区が既にプランづくりに向けた活動もしておりますし、これは地域プロジェクト事業と並行して進めている地区であります。糸魚川地区では、今1地区、大和川地区がワーキングチーム等をつくりまして、策定に向けた動きをしております。

このほかにいわゆる意向として、ぜひ地域づくりプランをつくっていかうというふうな地区のまとまりという部分におきましては、能生地域では上南地区のほかに2地区、糸魚川地区におきましては3地区、合計5地区の動きが現在進行しているというような動きであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

新公民館の組織体制、3年という検討期間がある。それからこの策定プランにつきましては5年くらいでしたでしょうか、まだ時期的には余裕があるんでありますが、特に、青海地域の新しい公民館の組織体制づくりがどの程度進んでおるのか。同時に、この策定プランとの兼ね合いで、青海地区にあってはどのように受けとめておられるのか。その点、わかる範囲でご答弁いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

青海地域の現在の16の公民館が、23年、24年、25年の移行期間の間に、4つの地区公民館に新たに設置をされるということでありまして、そのために現在、公民館長さん、公民館の役員さんの方々と協議をさせていただきまして、建物をどのようにするのか、また新組織の体制、館長さん等の役員体制ですけれども、そういうものや業務内容について話を、昨年から各地区ごとに始めてるところでございます。まだ具体的なものは見えてきておりませんので、これから市が具体的な素案をつくりまして、地元の皆さんに提示をして、協議を繰り返ししていきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

後段の地域づくりプランの青海地域における進め方ということになりますけれども、新公民館体制の青海地域の今進捗状況につきましては、田原課長のほうから説明申し上げたとおりです。

原則は3月の段階では、この新公民館体制の移行とあわせて、地域づくりプランの策定作業も呼びかけていきたいというふうに説明をしまいいりました。しかしながら、時間の経過もありますけれども、青海地域の長年築き上げられてきた16館体制、支館体制が定着していることもありまして、今、来年度予算に向けまして、地域づくり活動支援事業というものを金額も含めて煮詰めている段階でありますけれども、簡単に4館というようなことではなくて、その辺も地域の実情に応じた、例外的な部分も認めながらということは、具体的には当面の取り組みとして支館単位でスタートして、最終的に今の4館のいわゆる新しい公民館体制のエリアの地域づくりプランにたどり着くという方法も認めようではないかということで、部内では今話を進めておるところであります。

よって、今の新公民館体制の移行の中で、あわせてこの地域づくりプランの件についても地元の皆様と話を詰めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

各地区公民館におきましては、役員さんが1年交代、あるいは2年交代、中でも館長さんが1年交代、あるいは3カ年と、青海地内16館の中でもいろいろな取り組みになっているんですけども、自分の代ではなかなか進めづらいと、もう一言でいえばしたくないと、後継者の方にバトンタッチしようかというような、そういうニュアンスのこともありまして、私は全体としては青海地区の場合は、なかなか前に進んでいかないのかなというふうに思ってたんですが、今のご説明では少しずつ少なくとも16館が4館に向けて取り組んでおると。少なくとも2年後には旧青海町は全地区、新しい体制の4館体制に移行しますと、こういうふうに受けとめてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

新公民館体制につきましては、この新しい体制になる趣旨、目的等は館長さん、役員さんには理解をいただいているものと思っております。

ただ、具体的にどのような形で移行をするかというところは、まだ地区によってそれぞれの地域差といいますか、そういうものがございまして、これから具体的な案を示した中で説明をして、わかっていただくようお願いをしたいと思います。26年の3年間が終わったところでは、青海地域だけでなく糸魚川地域、能生地域、みんな含めて新しい体制にもっていくように、なっ

ていただくようお願いをしておるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

野本議員。

22番（野本信行君）

こういう大方針が出された以上は、やはり全市が同じ組織体制、活動体制、そういう方向でいていただきたい。そうなるこそ初めて、平等な補助金であるとか支援というものも私は出てくるんだろうなというふうに思っております。いろいろと大変な向きもあるかもしれませんが、ぜひ一日も早い方向性の確立をしていただきたいということを最後をお願いして、私の質問を終わらせます。

議長（古畑浩一君）

以上で、野本議員の一般質問が終了いたしました。

次に、鈴木勢子議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。〔25番 鈴木勢子君登壇〕

25番（鈴木勢子君）

25番、鈴木です。

発言通告書に基づき3項目質問をいたします。

1、放射性物質を含む汚泥処理と低線量被ばくなどについてお尋ねいたします。

昨年の福島原発事故を境にして、放射性物質を含む汚泥処理などの受け止め方が自治体により大きく違ってきました。そこで次の点を伺います。

(1) 市内セメント会社2社とも受け入れてきた下水道汚泥について、昨年5月12日の電気化学工業株式会社の測定では2,000ベクレル近くの放射性セシウムが検出されております。これについて当時、市としてはどのように把握をし対応してきたのでしょうか。

(2) 今回の上水道汚泥などの受け入れについて、各地区で開催された住民説明会では市民の理解が得られていないのではないのでしょうか。未回答の点をどうしているのでしょうか。

(3) 低線量の内部被ばくについては、市はどのように認識しているのでしょうか。

(4) 1986年4月のチェルノブイリ原発事故を踏まえて、放射性物質を含むガレキや汚泥などの処理は、封じ込めと拡散防止が世界共通の原則でもありますが、これを糸魚川市はどのように捉えているのでしょうか。

2、津波避難訓練と防災減災についてお尋ねいたします。

6月24日、市内海岸線の全域で行われた津波避難訓練は当市にとって初めての訓練でしたが、そこで次の点について伺います。

(1) 各行政区の最終避難場所の指定に問題はなかったのでしょうか。

(2) 能生・糸魚川・青海地域で今後の課題となったことは何でしょうか。

(3) 犠牲者を出さないために、海拔の低い地域での津波対策は整っているのでしょうか。小学校や福祉施設などの対策は大丈夫でしょうか。

(4) 地震時における市街地の火災発生への対策、避難場所の指定などはどのように決められているのでしょうか。

3、子育てにやさしい社会の実現について。

去る6月「男女共同参画推進週間」の新潟市での「女(ひと)と男(ひと)フェスティバル」では、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)の村木厚子さんの講演があり、市民とともに市の係長職らも参加されました。そこで次の点について伺います。

- (1) 「国全体、地域全体で子どもたちを支えよう」とする子育て支援策が明確で、当市の子育て支援策で欠けている点をどのように受け止められてこられたでしょうか。
- (2) 市の重要課題でもある人口減少対策への今後の展開はいかがでしょうか。
- (3) 母親の就労がかなう社会とワークライフバランスの実現に向けての具体策はいかがでしょうか。
- (4) 地域ごとの充実した児童館は子育て支援に欠かせない1つではありますが、これからの整備計画はいかがでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長(米田 徹君)

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、電気化学工業株式会社から処理をしている下水道汚泥に放射性物質が含まれていることが、当時の国の暫定基準を下回るレベルであることの報告を受けております。

2点目につきましては、これまで開催した説明会では処理を心配する声もありますが、支援を支持する声もあります。

3点目につきましては、この処理における内部被曝の可能性はないものと判断いたしております。

4点目につきましては、セメント処理が安全な処理の1つであると考えております。

2番目の1点目につきましては、各地区において避難場所と経路を検討して訓練に参加していただき、おおむね選定した場所は適当であったと判断をいたしております。

2点目につきましては、全地域にわたり避難場所、避難経路の再検討、情報連絡体制、役割分担等の確認、及び要援護者支援体制の検討などが課題ととらえております。

3点目につきましては、高いところに避難することが重要であり、公共施設及び民間施設の津波避難ビル指定に向け準備を進めており、順次していく予定であります。

4点目につきましては、当市の消防力だけでは対応できない場合は、相互応援協定による応援や緊急消防援助隊などによる対応をいたします。

3番目の1点目につきましては、子どもに関する窓口をこども課に一本化し、子ども一貫教育方針と次世代育成行動計画に基づいて、家庭、園、学校、地域全体で子育て支援に取り組んでおります。

2点目につきましては、野本議員にもお答えいたしましたが、結婚を希望する男女の出会いの場や、不妊症治療費助成、産み育てやすい環境づくりを進めるとともに、市内での働く場の確保や子どもの地域愛形成など取り組みを進めてまいります。

3点目につきましては、企業の育児休業代替要員の雇用と、短時間の勤務制度利用に対する助成

を実施いたしており、今後さらなる事業の周知、啓発に取り組んでまいります。

4点目につきましては、児童クラブ室の設置を優先して進めているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

まず、1番目の1点目ですが、7月10日の議会の市民厚生常任委員会で示された資料で、2,000近くの出ているわけですが、非常に私たちはびっくりしたわけですが、環境生活課、担当課として電化社と、どういった具体的なやりとりがあったんでしょうか、その当時ですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

企業からは5月11日に受け入れをした下水道汚泥から、1キロ当たり1,763ベクレルの放射性物質が検出されたと排出元から5月17日に連絡を受けております。

それをもちまして搬入を停止しておりましたけども、この汚泥を原料に使ったセメント製品の結果が5月30日に出て、それについては1キログラム当たり34ベクレルであったということで、これについては国の基準としてもクリアランスレベルであることから、今後も受け入れを行っていきたいとの報告を6月1日に受けております。それで法的には問題がなかったこと、それから当時、放射性の測定器等も市としては所有していなかったことから、市としては公表をしておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

課長の答弁では、若干の電化社との資料の日付のずれもあるんですが、時間の関係でちょっとそれはまた後で確認しますけども、6月1日にこの資料では、受け入れを停止したわけですが、下水道汚泥、今600と言いましたかね、数字では1,000を超えているんじゃないですか。私はこれ資料は、会社からいただいた資料を見てるんですけど。失礼、1,700です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

数字につきましては1,763ベクレルということで、これについては5月17日に連絡を受けたことから、そこからは搬入を停止しましたけども、5月30日にその製品結果が出て問題ないと

いうことから、6月1日以降、また受け入れをするということで連絡を受けてるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

1,700ですね、私、さっき600と言いまして、ちょっと勘違いしてましたね。6月1日、このときでもこのグラフでは1,000を超えてますよね。これは専門家に言わすと、当然ここは危険管理区域だということを言ってますけど、市が非常に見方が甘いというか。私、今なぜこれを聞いたかという9月3日の行政報告、定例会初日ですよ、市長の行政報告で、各自治会をはじめ15カ所で説明、延べ384人の出席をいただいております。それで市としても不安の声もあるけども、測定体制を強化するなど市民の皆様の安全対策に万全を期したいというふうに、9月3日に市長は行政報告で、これを言ったわけですよ。ホームページにも載ってますけど、それであえてもう一度、ちょっと過去のことでも聞いたわけですが。

それでその後8月に、明星セメント社も含めて下水道汚泥は8月はどれだけ受け入れてますか。5月、6月、7月は議会の資料では書いてあります。8月はどれだけ下水道で受け入れてますか。それから、そのときのセシウムの濃度も教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

8月の分については、まだ報告を受けておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

報告を受けてなくても聞くべきでしょう、聞けないんですか。全く8月は下水道汚泥は、このセメント会社2社は受け入れてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

8月についても汚泥の受け入れはしておると思いますので、早急に受け入れ量等を確認したいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私は事前に通告書を出しているわけですから、これについてもう少しきちっと調べる、その姿勢ですよね、そこが問われるかなと思います。

それで市民の説明会、何カ所かでありましたけど、質疑応答の中で幾つかホームページにQ & Aを掲載してますけども、搬入ルートはどこだっという質問に対して、回答、まだ決まってない。ほろつきトラックか、密閉型のトラックを利用しているか、詳細は受け入れが決定してから調整ということ、これはどうなんですか。その後、何日かたってますけど、この回答は、まだそのまんま進んでないんですか。受け入れ決定してから調整するんですか、どこのルートを通るか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

説明会では、受け入れルートについては国道8号か、もしくは高速道路になるというお答えをしております。ただ、正式に搬入ルートについては、この2つのうちいずれか、あるいは両方使うかということになるかということで、決定されてないというご返答をしたものでございます。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後1時39分 休憩

+

午後1時40分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

これは市のホームページから拾って9番目ですよ。次、たくさんあるんですけども、11番目に、保管はどのようにするのかって、その管理体制ですね。基本的に工場内に保管せず、トラックからそのまま投入って書いてありますけど、電化社の7月10日の資料では、保管倉庫の写真があって、保管倉庫から投入ホッパーと言うんですか、写真入り、これちょっと違いますよね。明星社は、また違うんですよ。これを市はどういうふうにとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

原則的には、トラック1台、1台運ばれてくるわけでございますけども、原則は投入口に投入す

ると。ただ、まとまって到着した場合、やはりセメントに入れる原料の比率というのは決まってるわけですから、一時保管をする場合がある。また、機械等トラブルが起こった場合も一時保管をするということで、保管する場合は上屋つきの保管庫に両社とも入れるというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

次、13番目に、放射性セシウムを電気集じん機で99.9%集められると。これに対して回答が、実際に処理を開始してる他の工場でも放射性物質は検出されてないと答えてるけど、他の工場というのは、どこと、どこと、どこですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど他の工場というのは、関東地方の工場でございます。現に太平洋グループのセメント会社では、ホームページで排ガス中のセシウム濃度を公表しておりますが、いずれも検出しておりませんというふうになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

ですからね、他の工場って関東地方、太平洋セメントでしょう、私も調べましたけど熊谷、やっぱりその名前を言わなきゃ丁寧じゃないでしょう。把握してるのかどうかというところ、7月22日の説明会でもこれ出ましたよね。部長は同じことを言ってます。それに対して未回答ですから、その後、7月22日の説明会から2週間ですね、調べてないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

セメント会社の名称を言うのが適切かどうかわかりませんが、関東地方で今現在、上水道汚泥を処理している事業所は5工場あるということで、栃木県内で1工場、茨城県内で1工場、埼玉県内で3工場あるというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

検出されてないって言い切ってますけど、今、もうソーシャルネットワークで情報を糸魚川にい

たつて、もうどこでも世界の情報を取れるわけですよ。どこで検出されてない、製品としてなのか、土壌なのか、そこもきちっと調べてください。されてるんですよ、ゼロではない、そのところですよ。

それで内部被曝も2番目、ないって言いましたけど、内部被曝についてないなんて、市長、専門家じゃないでしょう、言えます。あったとき市長が責任、5年、10年後でとれますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

内部被曝の問題につきましては、外部被曝とともに非常に重要なことであると思っております。

それで汚泥をセメント処理する場合、説明会でも申し上げますように、セメントを生産する原料の汚泥の率というのは、おおよそ100分の1程度というふうに言われております。また、その投入した汚泥が、ばいじん中に含まれる場合も当然あるわけですが、ほとんどがサイクロン、電気集じん機により集じんされ、また原料化で戻ってセメントを生産される。

したがいまして、煙突からの放出量というのは、ほとんどないということで、セメント会社におきましても今現在も下水道汚泥については投入しておりますが、検出されていない。あるいは上水道の水道についても他工場で実施しておりますが、検出されていないというような状況でありますことから、内部被曝の可能性というのは、非常に低いというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

それは国際放射線防護委員会、ICRPってよく言いますよね、ここの基準でやってるわけ。政府もICRPのを全然守ってなかったんですよ、この3月までね、それから変わった。ところがチェルノブイリの事故以後、ヨーロッパの欧州放射線リスク委員会、ECRRって言う、ここでは、もう全てのものは微量でも影響がある。最初から影響がないと考えることを前提にするのは間違っている、だからここの違いでしょう。こと放射性物質に関して目に見えない。セメントの粉じんだとか、ざらざらして家の中がこうなるとか、そういうことではないから、これは重大なことですよ。もう原発事故は最大の公害ですから、それに対して今を生きる私たちは、次の世代に禍根を残さないような判断、取り組みをしなきゃいけないというところで取り上げたんです。答弁するほうも、しにくいと思う。

例えば新潟市を含む5市で大槌町からの瓦れき6,300トン、今どうこう言ってますね。私たちセメント会社は1社で1万8,000トンでしょう、桁がちょっと違うわけですね。やはり封じ込めるっていうこと、拡散したらもうどんどん。去る6月4日の新潟大学の野中教授のお話も聞かれたと思いますけども、同じ住民同士の対立させる構図をつくっちゃうの。想像力の欠陥と責任転嫁というところで、今5市の場合は、それぞれの自治体の施設で焼却するわけでしょう、5市ね。私たちは糸魚川市の清掃センターの焼却じゃないわけ。だから管理下は市じゃないでしょう、セメント会社でしょう、そこを問うてるんですよ。だから何かちょっと危機感がないというか。

それで、いろいろな7月22日の未回答の部分もたくさんありましたよね。これ本当は1つ1つ、大事なことから聞いていかなきゃいけないと思うんですけどね。まず、先ほどの国際的にもICRPとヨーロッパのECRRの、この見解がわかったと思うんですね。皆さんも勉強してると思いますよ。今まで従ってきた、日本は厳しくて国際的にもどうこうって言う人もいますけども、ICRPっていうのは、アメリカが核兵器をつくって、それを人体にどんな影響を与えるかっていう研究する部門だった。だから低線量でも浴びた放射線量と、その影響は比例するって、もうここでも言ってる。勉強してるけど、もっともっと次世代の子どもや孫のためにしなきゃいけないっていうことを、私、問いかけた。

それで7月22日に教育委員会が主催した講演会、北海道大学の佐藤努教授ですね、糸魚川出身、これを企画したのは教育委員会ですけど、開会の挨拶で教育長はご自分の言葉をお忘れになったかなと思うんですけど、もう一度思い出してほしいのは、勉強したいなと思った、したいなと思った。それでどんな勉強をされましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

ちょうどその時期、新聞とかテレビとかインターネット等で、さまざまな情報が飛び交っていたかと思います。福島第一原発の放射性物質飛散に伴うこと、それから水俣病の申請時期にちょうど差しかかっていたこと、これらのこと。それからカドミウムとか、水銀とか、ヒ素とか、そういうことを含めて、いろいろな公害があるんだということをよく学ぶことができましたし、企画する段階で、皆さんがどういうことに興味、関心を持っているかという、それを言葉に置きかえて挨拶にする、これは当然のことだと私は思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私も聞きましたけど、1時間以上経過してもご自身が取り組んできた地質学の研究のことばかりで、肝心のテーマ「子どもたちを汚染から守る 放射能と重金属」、これ触れなかったでしょう。最後の12分ですよ、残り12分でやっと触れたの。ところが、もう安全性を展開ですよ。具体的に重金属や放射能汚染から子どもを守ることを話さない、時間配分を考えてください。教育委員会主催ですよ。それでタイトルが「子どもを汚染から守る」ということだから、純粹に聞きにきた市民がとっても多いんです。ところが帰るときに、これが日本一の子どもを育てようという教育委員会が主催した講演会かってあきれてましたよ。

私はその後、教育長は放射能に関してどんな勉強をされたんですかって、そこを問うてるんです。その後、7月7日、佐藤教授以降、どういうふうに勉強されましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

子どもたちを汚染から守るということで、私たちの周りの放射能と重金属ということで、大人が何をすべきかということをお話していただきましたし、教授そのものがずっと生涯研究を続けている事柄が粘土質、粘土の中へ核というものをおさめることによって、より安全に処理することができる。そこへもっていかなければいけないんだけど、ただ原発を停止しただけでは、そういうもし万が一のことを考えると災害はなくならないと。だから本当に遮へいするまでが私たちの仕事であるとか、大人の仕事であるということをお話されたと思いますし、それは原子力に関してですし、それから特にヒ素を中心にお話をされたことを記憶しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私ね、竹田教育長の個人攻撃ではなくて、0歳から18歳までの一貫教育を進める。だから人口にしたら数千人ですよ。その子どもたちの行政のトップにいるから、あえて聞いたんです。ですから安易に内部被曝はないとか、そういうことではなくて。

チェルノブイリもそうなんです、事故が起こって1年ぐらいで出なかったでしょう、甲状腺。私、先日、松本市長、菅谷昭さんのお話、3時間聞いてきましたけど、新潟市で。松本市長はやはり外科専門で、甲状腺がんの専門ですからチェルノブイリに、ご存じのように医療活動に行ってきましたよね。それでチェルノブイリも5年たって子どもたちの甲状腺がんが2倍に、5年、10年たったら、もう10倍ですよ。だから今すぐは出ないんです。長い目で見て私たちは子どものことを考えましょうっていうふうに、今ここで一般質問に取り上げたわけです。

ちなみに佐藤努教授は、国の前の原子力安全委員会のメンバーですから、当然、原発推進の立場にあった人ですね。事故への反省もなくして原発存続に、私、非常に偏った講演会だったと思いました。原子力安全委員会のメンバーでなかったですか、違います、講師選定のとき。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

佐藤努さんは日本原子力学会のほうの編集委員でありまして、原子力委員会のメンバーではないというふうに思っております。また、佐藤努さんは、今、教育長がおっしゃいましたように鉱物と重金属ということで、特に粘土ということで、放射能をいかにしてその危険な物質を、今こういう水素爆発によって飛散したものを、どういうふうに処理するかというような視点で述べられた講演だというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私、経歴からホームページで全部拾ってみたんですけど、要するに国の原発推進の委員の立場にあった人なんです、名簿も全部拾ったんです。部会に分かれてるんですよ、それぞれの部会で、それで地質学専門ですから、そっちの部会にも入ってる。これは国のホームページが間違っていないと思うんですね。それで私は、そういう佐藤教授の見解もあるかと思えます。ですから子どもの命、健康を守るということを考えたら、やはりまた違う立場の先生の話も聞いてみないといけません。だから国会に出た東京大学の児玉龍彦教授、ご存じだと思いますけども、この方もお医者さんですから佐藤教授とまた違う立場ですね。お医者さんの立場から、また勉強していくのも大事なというふうに思います。

それでセメント会社が受け入れることに対して、いろいろ賛否両論あるかと思いますが、やはり市長、市民の不安を1つ1つ丁寧に解決していくこと。だから検査体制も測定体制強化と言いましたね、行政報告で。具体的にどのように強化していきますか、これから。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

基本的には私ども今測定できるのは、空間線量の測定でございます。これにつきましては、今、一部定期的にやっとなるわけでございますが、先日、野中先生のお話も聞きましたところ、やはり土壌汚染も心配だというふうなお話を聞いております。

ただ、私どもができるのは空間線量でございますので、やはり土壌に近いところの、例えば非常に地面に接するか接しないところの放射線もはかる、あるいは人の口の高さの放射線もはかる。そのように、できるだけ細かな放射線測定をすることによって、その放射性物質に汚染されているのか、されていないか、少しでも早くキャッチをしたいというふうに思っておりますので、できるだけいろいろな先生方の意見もしっかり聞くという中で、私どもが今まで気づいていないことも含めて、対策をとっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そうですね。野中先生、皆さん、管理職の方の副市長も来ていただきましたけども、非常にいい勉強だったと思いますね。空間線量だけじゃないということね。

私も翌日、野中先生と市内の明星セメント社周辺、電化社周辺をぐるっと回りましたが、やはり全体の総量があまりにも大き過ぎるんですね。5市で6,300トンでしょう、1社で1万8,000トンでしょう、明星セメントは汚泥1万2,000立米といいますけど、トン数にしたらもっとふえますよね。これだけのものを糸魚川市、ジオパークの糸魚川へもってくるんですよ。こ

の現実ね、ですから空間線量もよりやっぱり土壤。

だから体制を強化するって、市長、初日に言ったんですから、この強化するための測定器、それからもし自分のところで土壤測定できなかつたら、今ソーシャルネットでどんどんできるところがあるんですよ、関東で。野中先生はある工場のところで、樹木の葉っぱとかもやってみたらいいって言ってましたけど。いろいろ専門家は、やっぱり空気だけっていうのは、常に風で流れてるでしょう、糸魚川市は海の風と山の風、だからその時間によっても測定値が違ってくる。

それから市が予算づけして購入した測定器ですよ、青海事務所と能生事務所にもある。貸し出しをしますって議会で言って、今度、貸し出しをストップしましたよね。これまた機械があまりにもどうこうって言ったけど、ラディって堀場製作所、日本が一番精密なメーカーで、これ何か安いものだと思ったら10万円のを買ったわけでしょう。これぜひ貸し出しをしてください。貸し出しをするって言って購入したわけですから、ここどうしますか、担当課。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市としては、今持っているそれよりも精度のいいものについて、測定が必要な方については申し出てください。市の職員が行って測定いたしますということにさせていただきました。ただ、今言われた10万円ですけども、簡易型の測定器もございますことから、それについても貸し出しは行うことにいたしました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

いたしましたということは、一度ストップしたんですけど、私も借りられなかった。しましたというのは、どこでまた公表しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

「おしらせばん」で載せました。

議長（古畑浩一君）

渡辺課長、何月何日のと言ってもらわんと困る。

環境生活課長（渡辺 勇君）

失礼いたしました。

9月のきょうで載っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

9月10日号、私、まだ見てませんでしたので、じゃあ見えます。

糸魚川市にこれだけの総重量の膨大なものを持ってくるという。ある意味で、セメントは基幹産業でもありますから、いろいろ市としての立場もあるかと思うんですが、さきの質問者の人口減少とか、観光の入り込み客の減少とかって活力が失われているということも、これは事実ですけども、最後は、やはり私は人と人とのつながりが一番だと思うんです。

市長は自分たちのまち、自分たちのふるさとに誇りを持ちながら自信を持っていこうというふうには答弁されたけど、こういうことをやっていると、本当に若い世代の人が自分のまち、誇りを持てるのか、自信を持てるのかっていうふうには私は聞きましたが、今後ともこれは長く続く問題ですので、対立軸ではなくて、もう少し真剣にお互いに次の世代の、市長の代が例えば変わってもという言い方は失礼なんですけども、ずっとずっと先のために禍根を残さないようにやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

次、2番目の津波の訓練ですが、初めてこれ試みでしたけども、避難場所、1日目の保坂悟議員の質問を聞いていて、青海地域ですね、新幹線の高架橋を使ったんですけど、これ消防長、把握してないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

把握はしてありません。ただ、地域の要望として、資材運搬用道路を避難路として活用できないだろうかというようなご提案はいただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

田原議員が質問のときに、行政の役割は壊れているって、まさに壊れてますよ。

これ10メートル以上の場所に避難しましょうって、一時的にこれ呼びかけましたよね。田海地域は、最初は総合福祉会館に集まったんですね。それから消防の指示だったのか何かわからないというんですけど、複数の方から、次、新幹線の高架橋、鍵が開いてたって、そこへ上がったの。ところが上がってびっくりしたのは、そこに帝石の50センチのガス管が、ずっと富山へいくパイプラインが通っててびっくりした。これ避難だからいいけど、実際そこへ上がってガスパイプ、どうなるかわからないところで、こういうのはいいのかって。私、言ったでしょう。でも把握してないの。

市長が高架橋は考えてないと言いましたけどね、実際に私、複数の人から、1日目の初日の質問が終わって、夜また田海地区の方に確認に行ったの、みんな上がってるんですよ。どういうことですか、これ。把握してなくて、消防の役割を果たしてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

先日ご質問いただきましたので、係の者にも改めて確認をさせていただきました。事前にどこに避難をするかということにつきましても、防災組織の代表者から聞いておりますし、また、その後、終わった後からも、どのような形で避難をしたかということのご報告もいただいております。いずれも確認をしましたけれども、我々が把握しておる資料の中には、そういうものを使って訓練をしたということについては記録に残っておりません。ただ、事実につきましては現場を見ていたわけではないので、そのようなことがあったのかもしれない。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

ですから私、6月24日以降、言ったでしょう。高架橋も使ったって、だからそこでもう2カ月以上で調べたらどうですか、事実も。記録にはなくても、実際、上ったんですよ、職員。10人や20人じゃないの。だから極端に言えば鍵が開いてたって、鍵をもしこじ開けたんだったら不法侵入でしょう。打ち合わせしてあったんじゃないんですか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時 9分 休憩

午後2時10分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

職員ではなくて、市民の避難場所としてなったんです、高架橋。

それで田原議員も前から寺町地区、高架橋はどうこうって言ったので、私も助かる命だったら、高架橋でも高いところへ上るのが先だと私はずっと思った。NHKスペシャルも、先週もずっと

見たでしょう、釜石の片田先生とか、やっぱり高いところへ行くのは。

だから私、高架橋がだめって言ってるんじゃないんだけど、そちらが把握していないんだけど、市民もそこを使ったので、ここの地区だけじゃなくて寺町地区とか、もっと利用してもいいんじゃないかなっていうことなんですよ。高架橋を使うんじゃないんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も今回のいろんな一般質問の中で、そういった避難所指定という話でお答えをさせていただいております。指定については、非常時に起きたときだけではなくて、平常時のときに決める場所でございます。そういったところは、やはり誰もがふだんからも行ける場所を指定しなくちゃいけないわけございまして、恐らく許可の出ないところに指定所はつくれません。ただ、災害が起きたときの避難は、これは命が大事でございますので、どこでも避難できると思っております。そういった意味で、私ははっきり避難所とは指定できません。しかし、災害のときの対応は別ですというお答えをさせていただいております。

また、後段のご質問については、消防長からお答えさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

今回の避難訓練は、市民の皆さんが自主的に避難路、避難場所を考えて、そしていろんな経験をしていただくというのが大きな目的でありました。ご指摘のように、我々は現実を把握してない部分があるかもしれないけれども、鈴木議員がお話のあったようなことが、あったのかもしれない。それはそのようなことの中で、結果としてもしそういったことがあったとすれば、住民の皆さんが独自にお考えになられて、たまたま今回は工事用の上り施設があった関係があって、そこに立ち入られたのかなというふうに思われるということしか、ちょっと答弁のしようがございませんので、後はよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私ね、これ訓練だから許されるけども、実際に高いところに逃げて命が助かるんだったら、高架橋もある意味で公園ですか、相手先はちょっとわかりません、正式な名前。やっぱり糸魚川市は東西に長く何キロも、だからそういうものを利用していただけなのかとか、折衝していくのも大事かなと思います。

たまたま帝石のパイプラインがあったから、もうびっくりしたというので情報が入ったんでね、別に私はもっといい方法があったら、それはもう糸魚川市内、寺町であろうがどこでも高架橋を使

うように、やっぱり市長も努力いただきたいなと思って取り上げたんです。私は確認しましたが、もう一度そちらも確認してください。

最後の子育てですが、これも6月定例会で取り上げてますけども、やはり人口減少、自然的な減少、社会的減少いろいろあるんですけども、もう一度、私、6月7日の新潟日報、20年前とあんまり変わってないということを紹介したんです。もうちょっと力を入れて、市長、やりませんか、これ。

児童館もそうです。放課後児童クラブと児童館の位置づけ、ごっちゃにしてるけど、教育長、答弁してください。違うでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

児童館というのは、どちらかという県の補助を受けて市が設立して運営していくもの。それから放課後児童クラブ室、これに関しては市が保護者の要望、それを学校が受けて委員会に出てきたものに対応して設置していくもの、このようにとらえております。

先般もお答えしたように、今現在のところ新しい施設をつくるよりも、児童館ではなくて放課後児童クラブ室のほうの充実を図っていく。今現在、日曜日がお休みだからどうのこうのということもあるんですが、放課後児童クラブのほうは休みだということもあるんですが、そういうことも含めて検討していくということで、先般お答えしていると思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

まさに、これ保育所の官民格差ってないと言いましたけど地域格差がある。能生に児童館があつて、糸魚川、青海がないでしょう。これどうするんですか、今後、一貫教育の中で。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

あの地域にあつて、この地域にない、だからという話は、私は以前からお話させていただいてるように、やはりどういう内容で、どういう状況か。いろんなものを判断する中でさせていただきたい。やはり今、非常にこの長い歴史の中で進めているわけございまして、なかなか統一できないのも現状でございますので、やはりそういう中にあつて目的、内容をしっかり充実するために進めていきたいと思っております。施設ありきじゃないと私は思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

施設ありきではないですけどね、児童館と放課後児童クラブの位置づけて違うでしょう、教育長、同じじゃないでしょう。

議長（古畑浩一君）

鈴木議員、時間が終了いたしました。

これで質疑を閉じていただきたいと思います。

以上で、鈴木議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を2時30分といたします。

午後2時17分 休憩

午後2時30分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

ただいま行われました鈴木勢子議員の発言の途中に、北陸新幹線に並行して、その上部のほうに帝国石油のガスパイプが並行してあったというふうな発言がありましたが、新幹線の高架の下に、そうした帝国石油のガスパイプが存在するという点については認めがたいと。これらについては事実を確認した上で発言の訂正を求めたいというふうに思っております。

それから2点目でありますが、放射能測定器の場面で、

中国、韓国の製品をばかにした発言というふうにとられるということのご指摘がありました。

以上、2点についての発言の訂正を求めたいというふうに思っております。

鈴木議員、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

鈴木です。

ただいま議長からご指摘ありました後段のほうですけど、放射線量の測定器に関しては3.11以降、非常に全体の量が足りないということで、韓国製、中国製が国内で出回りました。1年たって、その測定の数値が非常に曖昧だということもインターネットでも流れてますので、そのことをとって私は今やはり一番いいのは国産だということをとらえまして、糸魚川市も国産の堀場製作所のラディを持っているので、宝の持ち腐れなので、最初、貸し出しをするって言って購入したわけですから、貸し出しをしてほしいって。だからちょっと韓国、中国に関しての偏見があったことは訂正いたします。

次、最初の新幹線の高架橋であります、これは上った方は複数いるんですが、たまたま上った

方が、私、ちょっと熱くなりまして高架橋の上って言いましたけど、金曜日も見てきましたけど、上じゃなくて下というか、横の下ですね。そこにずっとあるんですけども、どうもそれが資材のあれなのか、とにかくでもずっと田海から西につながってたというので、私はそれはちょっと今、上って言いましたけど、上に上ったらそこにあったというところで発言を言いかえます。実際には田海地域は、田海工場から富山に向かってのそれはあるんですけど、ただ、位置は私も見ましたけど、新幹線の敷地の中ではないということですね。それは訂正します。以上でよろしいでしょうか。

議長（古畑浩一君）

誤解を招く発言でありますので。それでは今ほど鈴木議員が答弁されたように変更ということにさせていただきます。以降、事実関係につきましては、明確に発言していただきますようお願い申し上げます。

どうも行政側におかれましては立入禁止区域内、特に新幹線の工事用地に避難訓練中に市民が立ち上がったということについての事実関係をしっかり確認するように、これは訓練中ということもありますが、ゆゆしき事態だというふうに思っております。事実確認をしっかりと確認するよう、議長のほうからお願いを申し上げます。

それでは引き続き一般質問を行います。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

13番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

本日は糸魚川市活性化への戦略について質問をいたします。

糸魚川ジオパークは、日本で最初に世界ジオパークに認定されました。地域活性化に大きな期待が寄せられた中、昨年12月に「糸魚川ジオパーク戦略プラン」が策定され、本年5月には糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトの方向性が示されて、プランを実践する段階となっています。

また、平成26年度末には北陸新幹線も開通することになり、それまでに、ハード、ソフト両面での整備と活性化が求められています。

地域の方々から取り組みの甘さを指摘され、思うほど目に見えた形になってこないジオパーク、新幹線活用に対して不満や不安の声が聞かれます。

観光に関しては後進地である糸魚川市が新幹線開通後に向けた下地の強化、基礎固めを行うことと、具体的な施策により交流人口の拡大を図ることを合わせて行っていかなければなりません。

次の点についての取り組みを伺います。

- (1) 現在行わなければいけない下地の強化、基礎固めとしてどのようなことを考えているか。
また、現在の取組状況と今後の計画はどうなっているか。
- (2) 交流人口拡大の具体的施策としてどのようなことを考えているか。また、現在の取組状況と今後の計画はどうなっているか。
- (3) あらゆる事業において、ジオパークと関連付けた検討を行うことが日常的に職員に意識付けられて行われているか。

(4) 国、県との連携はどのように図られているか。

(5) J R 各社、旅行代理店、民間シンクタンクなどとの連携はどうなっているか。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、交流人口の拡大を目指してジオパークを推進するため関係団体との連携や、ガイドの養成などの人材育成と解説看板の整備など受け入れ体制の強化が必要と考えております。

今後も、おもてなしの充実や意識の向上などに引き続き取り組んでまいります。

2 点目につきましては、旅行関係機関との連携が重要と考えて取り組んでおります。

今後も情報発信、誘致拡大と受け入れ体制整備を進めてまいります。

3 点目につきましては、プロジェクトチームを設置するなどして庁内一体となって取り組んでおります。

4 点目につきましては、ジオパークのユネスコ正式プログラムへの承認と、ジオパーク支援強化について関係省庁に働きかけを行っております。

また、県につきましては、糸魚川地域振興局を窓口として人的な協力をいただくとともに、情報発信などについて連携を図ってまいります。

5 点目につきましては、J R 西日本と東日本からは、情報発信と誘客にご協力をいただいております。また、旅行各社とは積極的なツアー誘致活動を展開いたしており、民間シンクタンクには糸魚川ジオパークの推進にご協力をいただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13 番（伊藤文博君）

この件は何度も質問してきました。今回どうしてもやらなければいけないというふうに思ったのは、歯がゆい気持ちと難しさを感じて、そして突破口を開いていきたいという思いからであります。項目が関連していますので、質問が前後するかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

いま一つジオパークに関する一般市民との一体感を醸成しきれないという点では、担当課も歯がゆさを感じているんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

正直なところを、非常に自問自答しながら3年間やってきました。私なりに成果を出すというのは、交流人口拡大で大きな意味合いですし、やはり世界認定をいただいたジオパークと、それから新幹線が開業という1つのターゲットでワンチャンスというふうにとらえながら、交流人口拡大を目指してきたつもりです。

ただ、決してそれは市民なり、ほかの責任ではなくて、私たち自身がもうちょっと違ったインフォメーションなり、戦略的なプログラムの展開という部分で、また、多方面からやり方をいろんなふうに変証しながら考えていけば、もう少し前に進めるかなというふうな気もしております。

ただ、市民全体がやはりベクトル合わせということで、部長もよく言いますけど同じ方向を活用の度合いでしっかり見定めて前に進む。市民全体のその領域の中で、自分たちがやれることを手を携えて一緒にやろうと。糸魚川市の全体的な市民力としてのやはり情報発信というのは、もう少しつくっていかなくちゃいけないというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

打った施策の効果が発現する時期という視点でとらえていくと即効性のある対策、これはイベントなんかの主になっていくと思えますが、それから時間をかけて取り組んでいかなければいけない長期的対策がある。取り組み初期であっても、両方を同時に行っていかなければならないというふうには考えるんですが、それぞれについて短期的施策、長期的施策という意味で言ったときに、どのように整理して取り組んでおられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

議員お話のとおり糸魚川のジオパーク戦略プラン、その後、糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトということで、庁内グループが主体になって仕分けといたしますが、活動するべき方向をしっかりとめながら展開してきたつもりです。

その中では誘致拡大、情報発信ということで、外に向けての糸魚川の情報発信なり、あるいはコンテンツ、素材としての糸魚川の磨き方、そういうものをしっかりしていこうということとか、それからもう1つは忘れていけないのは、先ほど話しました受け入れ体制の整備ということが大きな課題であります。これは市民レベルでもそうですし、それからガイドの部分でもそうだと思います。それから大きくは、それを受け入れる各市内の施設、その対応というのも重要なことだと思います。

短期的には、いろいろ戦略的に考えながら食を中心にした集い、あるいは定期観光を含めた四季折々の催事のあるいは誘客設定、また、そういうものへの既存のプログラムの中にジオを絡ませていくというエッセンスといたしますが、そういう切り口も必要ではないかなと。少しジオパークが、まだまだ知られてないとするれば、逆に既設の観光とかプログラムで誘客拡大をしながら、できるだ

けジオを、糸魚川に来たときに学んでいただくという姿勢も必要ではないかなというふうな取り組みをしております。短期的には、先ほども言いました食、ないしは既存の食材を使ったやはり提供の仕方、それから温泉地との提携。

長期的には、特に小谷、白馬、大町を含めた広域的な連携、それから上越、妙高を含めた情報発信を少し拡大したような中期的な取り組み、それから県内を主体にしたどこでという展開であります。日帰りを主体にした県内向けのプログラム制作、あるいは県外へのはとバスを含めた各旅行会社への連携プランということで、遠近含めてそれらを活用しながら、いろんなふうに今展開させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

これだけ聞いただけで、今ほどたくさんお答えが出てくる。かなりいろいろ詰めて整理がされていることがわかります。

その中でも市民の理解促進という意味の基礎固めですね、これが本当に重要だというふうに私は考えます。地域の方々の目線では基礎固めばっかりといいいますか、何て言いますかね、基礎知識の周知だとかいろんなことをやっても、なかなか具体的に周辺に変化が感じられないから、逆に意識が高まらなくて基礎が固まらないというようなことがある。具体的変化を感じる中で、それぞれの意識が変化していくということをやっていかなければいけない。

イベント等に直接かかわっている方々は、ほとんど心配ないですよ、もうそういう意識があっ
てやってますから。しかし、糸魚川まるごとジオパークだとか、糸魚川市民がまるごとジオパークの推進員だというような状況をつくらなければ、本当の意味で糸魚川がよくなっていかない。ジオパークが活性化のツールにはならないと思います。変化を感じさせながら理解を促進して、機運を盛り上げていくということが大事になってくる。言われてみれば両方やっているということではなくて、ここを明確に意識して取り組んでいく必要がある。

先ほど答えられた長期的、短期的施策というのは、どっちかという何て言いますかね、誘客拡大に直接つながっていくことだと思うんですけど、その前にというか同時に、市民の意識向上ということをやっていないとだめなんではないかと。そこを明確に意識して取り組んでいくという必要があるんですけど、この取り組みについてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークにつきましてのこの理念についてはご存じのとおり、その自然の特出した資源を保護、保全と、そしてまた地域振興という中で、今回まちづくりに使えるという形で取り入れさせてもらっているものであります。まさしく今、議員ご指摘のとおり市民お一人お一人に、全て取り組んでいただくのが、一番最大のやはり方向性であると思っております。

そういう中で、今ほど言いましたように、その市民の方々に取り組んでいただくことが大事なわけでございます。地域振興を見ていただいてもおわかりのように、行政だけでやっても、絶対これはもう成功するものではございませんので、市民の皆様方からもやはり立ち上がっていただくことが大事、そういうことで呼びかけが必要ということで、同じ1つの考え方になるわけでありませ

す。
そういう中で、当初は、まず世界ジオパーク認定を目指したものでございますので、そういったジオパークの考え方、そういったものを知っていただくこと。それと両面合わせて、やはりおいでいただいた方々がどのように対応しているかという、市民をやはり見ることもあるわけでございますので、そういったときに市民はどのように活動、行動してるかというところがある。それを立ち上がってもらうことと、ただお願いしますという形ではだめなんだろうということの中で、市民の皆様方が立ち上がっていく方向で、今進めさせていただいてまいりました。

例えば1つの例といたしましては、客商売にかかわっておる方々もご協力いただくというような形で、宿泊施設、またはいろいろ接客しておられます飲食、または理容・美容の方々にまず知っていただくという形で進めさせていただいております。今、もう1つは、やはり広く呼びかけさせていただくのは、今、地域づくりプランの中で、その辺もあわせて進めなくてはいけないんだろうという形でさせていただいております。

しかし、なかなか今まででさえも、地域振興という目的は非常にわかりやすく理解もしやすいし、いいことでもあるわけですが、できてこなかった中においては、なかなか難しい部分だろうと思っております。このジオパークという新しい1つの活動の中でスタートができればということございまして、ジオの多様性の中で、いろんな持ち合わせる地域の個性で立ち上げられるような仕組みであることは間違いないので、その辺を探しながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

考え方は、そのとおりだと思います。実際に誰に聞いてもジオパーク、糸魚川ジオパークだよと。市民全員というか大多数の人たちが、ジオパークに対して肯定的な環境づくりをしていかなければいけませんね。聞いたら、いや、ジオパークなんちゃねえなんていう話になるようじゃ困るわけですね。この環境づくりをしていくために、理念は今、市長が言われたことはよくわかります。具体的に、どうするかということですね。

先ほどプロジェクトチームをつくってという話もありましたが、今、私が言っているようなことを具体的に庁内で話をし、いろいろな方法を探っているというような実態はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

特にプロジェクトチームでは各課連携で、産業部が主体になっておりますけども、当課も年に1回春の時期に、いろいろ課を聞き取りしまして、ジオパーク関連でかかわれる、お互いに連携と

れる催事なり、推進の方法はないかということで各課と連携を保っております。そういう意味では、少しずつではありますが、意義づけといいますか意識づけがなされて、少しずつ活動に生かされているのではないかなというふうに思います。

ただ、それが先ほど議員が話のとおり、末端の市民まで届くかというのは、なかなかまた別の話でありまして、いろんな方がいらっしゃいます。あえて業としてもそうですけど、自分から世界ジオパークを活用しようという意識は、全部が持っているかということ、まだまだだというふうに思います。

ただ先般、うれしい事柄がありまして、1つの例として紹介させていただきたいと思いますが、クラシックカーレビューということで議長さんもマイクを持っていただきました。前代未聞で3万人の方が炎天下の中、集合されました。市内も物すごく昼間、昼食で場所がなかったぐらい大変にぎわったそうです。ガソリンスタンドも非常ににぎわったということで、市民の方の、多分ジオパークマスターを受けられた対象者だと思いますけど、お客様には市外から来られる人に、山のほまれをサービスにお配りしたというふうに聞いております。こういう結果そのもの、あるいは1つの出来事が、やはり市民それぞれがジオパークを意識して、お互いに取り組みめる材料ではないかなというふうに思います。こういう高まりがやっぱり市中にずっと勢いよく出てきて、誰でもやっぱりジオパークが普通に、オリンピックや世界遺産と同じレベルといいますか情報で、よく自分たちが、市民一人一人が理解できるとすれば、私はすばらしい糸魚川になっていくというふうに考えておりますので、もうしばらく職員含めて啓発なり、意識統一をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ジオパークって何と、それからジオパークで何を伝えたいのとか、ジオパークってどこを見たらいいのというような問いに対して誰もが答えられるように、道を歩いてる人たちが、市民が答えられるというのが理想なわけですが、でも、どうしたらいいかということですね。

直接的にどうする、その人たちを教育するというよりも、まず、「ジオパーク」だとか「糸魚川」「ヒスイ」といったキーワードを市内、それから市外の方々が、日常的に目にする状況をつくっていかなければ、そこに人がひっかかってくるといいますかね。例えば、ジオパーク検定というのは非常にいい取り組みですが、これは一部の限られた方ですね、よっぽど熱心な方たちと。そうではなくて、そういういい取り組みプラス、誰もがジオパークを身近に感じられる取り組みをしていかなければならない。

先ほどのクラシックカーレビュー、これはイベントとしてはすばらしいイベントだと思います。ただ、そういうことの前に、僕が言ってるのもうちょっと基礎的なところなんですけど、そういう状況をどうやってつくり上げるかということ、若手が中心になって検討していかないとはいけませんよ。

先ほどの話ですと、年に1回、各課から聞き取りしとると、それはもうプロジェクトとしては非常に弱いんですね。やはりもっと頻度を上げて、日常的にジオパークで糸魚川を何とかしようという

熱い集団みたいなのが出てこなきゃいけない。それが庁内から外に発展して広がっていくというように火つけ役的な役割を果たすところが、やっぱり必要なんだろうというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

今ほどのご質問でございます。庁内のプロジェクトチームのそれぞれのメンバーにつきましては、年に1回ということではありませんで、たびたび私のほうから招集をして、プロジェクトチーム長の会議とか、あるいは各庁内、産業部以外の皆さんも含めた全体会議というのを今年度に入ってから今2回、それから、できれば今月にもう1回やりたいというふうに考えるところでございます。

そういった中で、やはりご指摘のように市民の皆さんがどういったらジオパークというものを自分たちのものとして、日常的に意識していただくか、これは非常に大きな、重要なテーマだというふうに感じております。

田原議員からもご質問をいただいてお答えしましたように、やはりジオパークって何だっていうことを身近なフレーズで、あるいはキャッチフレーズ的なもので言いあらわせるような、そういったものを何とか考え出したいなということで、メンバーの中ではどういった見せ方をすればいいかというのを今詰めていこうというふうにしておりますけれども、ご提案のように例えば標語的なものとして、あちこちにこういった形、こういった形って見えるようにすることも1つのやっぱり考え方、あるいは方法だなというふうにも感じております。そういったところを参考にしながら、できるだけ市民の皆さんがジオパークって何ですかって聞かれたときに、すばっとうございよと言えるように何とかもっていききたいというふうに、今考えるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

先ほど私が言ったのはプロジェクトチームを1回しかやってないという意味じゃなくて、各課からの聞き取りが1回だけだと、それはやっぱり弱いでしょうと。もっと庁内全体で一体となっていくためには、もう少し頻度を上げた取り組みをしていかなきゃいけないんじゃないかということでもあります。

観光市場で、糸魚川ジオパークをヒットさせるということだと思っておりますよ。その戦略が重要になる。ここにジオパーク戦略プランもあります。それからプロジェクトの方向性もあります。かなりこっこのほうが具体的に書いてますが、情報発信というのが非常に大事になってくる。

先ほどから情報発信という言葉が大分出てくるんですが、この戦略プランにも情報発信機能の充実というのがありまして、項目がある。ところが、これよく見ると、受け入れの充実のほうになっているんですね。来ていただいたお客さんにいろいろなツールとして、情報提供の仕方でも情報発信機能を使うということになってます。誘致拡大に最も重要な情報発信が、その大事な誘致拡大のところはどうなっているかって言えば、ジオパークの普及、PRの下にあって、北陸新幹線開業に向け

たキャンペーン等による情報発信として、PRビデオなどの作成がうたわれているんですね。けど今、PRビデオなんか誰も見ませんよ。

だからいいものは取る、悪いものは省けばいいんですけど、せっかくお金をかけて作成したジオパーク戦略プランですが、よく総花的だとか、具体性に欠けるなどと言われます。いろいろ言われてますが、不十分であっても書類になって誰でも見られるというのは、これは大事なことです。大事なのは戦略プランを読み込んで、過不足を意識するということである。そこから新しい戦略も生まれてくる。大金をかけた戦略プランを無駄にしないために、このジオパーク戦略プランをしっかりと読み込んで、どこが足りる、足りないということを考えていく、そういう取り組みがされていかなきゃいけない。そういう共通認識ができていますか、庁内では。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

戦略プランの取りまとめをした中で、整理を進めていく中で、これをさらに具体化するために特に何が必要かということ整理しようということで、このジオパーク戦略プロジェクトで検討してきたところでございます。

その中で戦略プランの2つの柱でありますいわゆる情報発信、それから受け入れ体制の整備という、その2つの両輪を、どういうふうに具体的に動かすかということで、3つのプロジェクトの柱に、それぞれ3つの戦略という形で、もう少しシンプルに整理をし直したという作業をやったところでございます。

この中で、やはりそれぞれの作業を進める中では私のほうからも、その戦略の考え方をきちんと頭の中に入れて、それぞれの戦略にどのような事業として取り組むかというのを、メンバーの皆さんにしっかりと整理をしていただきたいという指示を出しまして、このような形で、今、整理を進めているところでございます。

そういったところから、それぞれの庁内の担当にかかわったメンバーの皆さんにとっては、このジオパークの戦略に対する意識というのは、持っていただいているものと理解しております。これを具体的に、今度は事業としてどう展開するかというのは、それぞれの所管課の事業担当者のいわゆる考え方や、あるいは取り組みの姿勢、そういったものにかかわってくるところでありますので、私としては、さらに皆さんにしっかりと意識を持ってもらうように、意識の喚起を引き続き進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

せっかくつくったもの、これを具体化していくためのやっぱり手法というのは、庁内全体でやっぱり展開していかなきゃいけない。ただ、プロジェクトチームをつくって、そこから中心にいくわけですが、各課との連携というところもやはりしっかりと注視して、確認しながら進めてもらいたいなと思います。

おもてなしの充実というのは大事ですが、お客さんが来てくれないことには、おもてなしもない。誘客拡大が重要である。そして来ていただいたお客さんには、リピーターになってもらわなきゃいけない。その誘致拡大、誘客拡大というところで聞かせていただきますが、情報発信の手段としてどのようなことを考えているか、また、取り組んでおられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

情報発信のツールとしては、活字媒体が基本になりますけどパンフレット、それから新聞、それから近年よく使っているのはフリーペーパーということで、富山、長野方面にあります。掲載は有料ですけど、自由に持って行っていただくと。よく定期観光ではそれをぶら下げて、これを見て来ましたというお客様はこのごろ多くなりました。

そういうところから始めまして、皆さん初日にもお話があったとおり、テレビを通じて糸魚川のジオパークというコマーシャルを1日1回させてもらってます。あるいはFM新潟等のご協力で、糸魚川からの情報発信ということで、いわゆる電波を通じた情報発信ということを行ってきました。特に、地方局からキー局で関東圏の地方局というルートができて、おかげさまでいろんなマスコットを含めて10分、12分という番組をいただきながら、無料で現地の生放送に提供させてもらっております。そのようなネットワークも今構築されてる。また、記者リリースということで、新潟並びに富山を含めまして、随時チャンスがあれば県庁経由の中で記者発表ということで、催事の発表や糸魚川の出来事を情報として発信させてもらっております。これがここ近年、非常にある意味で意味を持つ活動になってきております。

もちろん一般的な高速道路上での観光キャンペーン、こちらもやっておりますし、JRの皆さんからお手伝いいただきまして、大宮方面でのキャンペーンも行っております。

また、ホームページ等でもネットの活用ということで、まだまだソーシャルネットまでは展開できない状況でありますけど、ホームページ等での閲覧が可能なようにジオパークと観光情報の提供ということに力を入れてきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ご存じの方もおられると思いますが、佐賀県の武雄市では秘書広報課にフェイスブック係というのがあったんですね。これを4月からフェイスブック・シティ課に昇格させたと。ツイッターやフェイスブックを市政に積極的に活用していることで、武雄市は有名になっています。こういう事例を市内で、調査検討されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

武雄市の事例につきましては承知をしておるんですが、少し距離が遠いということもありまして、できれば視察等にお伺いをしたいなということで、副市長のほうからも指示をいただいております。ただ、行くまでに少し検討が必要かなということであります。

それから、武雄市さんの場合はフェイスブックをホームページにも使っておられるわけですけども、確かにそういった使い方ができるという利点もあるということでは重々承知をしておるんですけども、現在、私らのところでは、とりあえずツイッターでの情報発信ということで、ホームページと併用しての利用に取りかかったところでありまして、今後、フェイスブックの活用についても、いろいろそういった先進地を見たりする中で検討していきたいということであります。ただ、今言われますように今のうちの体制で、係の中の一部の人間がやっている体制の中では、なかなかこれは新しいシステム構築していくというところでは、弱い部分があるかなということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今、システム構築ってありましたけど、フェイスブックはシステム構築する必要ないんですね、システムできてますから。一般のホームページと違ってフェイスブックのいいところは、情報発信の細やかさだけでなく、随時やりとりができるんですね。誤解しないで聞いてほしいんですよ。フェイスブックをやったら、みんな解決すると言ってるわけじゃないんで、1つの例として、情報発信の例として、ほかのこともあるでしょうがということでお話してますので、市民からの要望や、市外からのジオパークに関する要望を受けて、直接的にそれに返答できる、対応できる。そして、そのことをほかにも広く周知できるという、そういうようなやりとりができます。情報に関する手法は日進月歩ですので、専門に調査研究しながら需要に合った手法を用いていくことが情報発信、双方向の情報交流には不可欠だと思うんですね。

交流人口拡大施策の効果にも情報発信の巧拙、うまい下手が大きく影響を与えます。せっかく多くの方が汗を流した取り組み、イベントも、外からのお客さんが少なければ寂しいことになる。頑張ってるしかないんですが、うまく情報発信ができれば反応も違ってくると思います。何年も続けてるうちに、どんどん大きくなってくる。

先ほどクラシックカーレビューの話もありましたし、先般、東京にいる友人からメールをもらって、お盆に能生のカニ屋さんのところへ寄ったら非常に多くの人でびっくりしたと。ああいう状況をつくるには、随分時間がかかったと思うけど、ぜひジオパークに関しては時間をかけないで、早く効果を出してほしいというのがありました。そういう意味では、やはり情報発信の仕方の巧拙というのは、多く影響をしてくるというふうに考えますね。

今、フェイスブックの話に戻りますが、武雄市では全職員がフェイスブックのアカウントを持っているんです。全員がフェイスブックに登録して、日常的に情報発信をしてる。仕組み的にどうなっているかということ、友達になると、自分が友達として登録した人のデータがダラーと並んで出てきますから、自分で例えば糸魚川市のホームページをのぞきに行く必要がないというところが、発信された情報がどんどん入ってくるんですね。だから情報交換がスムーズにいくわけですよ。

武雄市のように、例えば全職員が取り組めばコミュニティの輪は大きく広がっていく。それぞれ

の知人に広がっていくわけですから、その効果は相当大きいものになるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

フェイスブックの活用につきましては、議員がご指摘のとおりであるというふうに今考えております。ただ、先ほども言うておりますように、直ちに今取り組める状況にはないわけですし、もう少し検討が必要でありますし、そういった中では、先進地視察等もさせていただきたいというふうに考えております。

当面、我々、現状の中でできることとして、メールマガジン等を送付をするようなことを、少し現状の我々が持っている機能の中では取り組めないかなということ、今検討しているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

課長、メールマガジンは読まないですよ、読まない。だから手軽に見れるようなとこなんです。フェイスブックは、確かに見に行かれたらいいと思いますね、仕組みは。ただ、例えば総務課の職員全員がフェイスブックに登録して、パソコンからでもいいですから、どんどん情報発信してやってみるといって、入り口としては1つあるんじゃないですか。かちっと仕組みをつくって、全面的に取り組むのもそうだけど、入り口はそうやってやりゃいいんですよ。部長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

情報発信の方法には、今、伊藤議員がおっしゃられるように、日進月歩でいろんな方法が出てきております。ご提案の方法も1つの方法であると思いますので、完全なものというよりも、試行錯誤の中で取り組むことが必要だと思いますので、ご提案の方法も含めて検討してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ちょうどきょう、私のとこへ来た情報で、9月7日の下野新聞に出ていたんですが、栃木県の新聞ですね、日光市で職員が自発的に自主研修制度で、6月に発足させたSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）活用研究会が、自分たちで日光市のフェイスブックのページをつくってどんどん運用を始めたということのようです。こういう例もあるんですね。細かい話はいいですけど、

取り組みのスタンスはいろいろあると思いますよ。個人でやってるんですから、個人がホームページをつくるのは大変でしょう。個人がぱっとやれることをやってる。だからいろんなものを試してみたらいいと思うんですよ、本格運用じゃなくても、そんなふうに考えていただけたらと思います。

次いきますが、これは何度も言ってきたことですが、全職員が常にジオパークを意識して業務に取り組んでいかなければなりません。ジオパークは意識しているけど、自分の仕事となったときにはジオパークを意識しない、多分そんなことが多いと思います。もう違うと思ってるわけですよ、自分の仕事は違うと思ってる。職員まるごとジオパークにならなきゃ、市民まるごとジオパークは絶対無理ですよ。だからそこに対しての取り組みですが、先ほどプロジェクトチームと、その各課との連携の話にもなってくるんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

職員への意識づけの関係ですが、我々としては例えば建設部門、農林部門の関係者が道路を直すときに、これはジオパークとどういった関連があるかというようなことを考えながら、当然仕事をしてきているというふうに思っておるわけです。そのほか例えば教育文化施設を所管する部署においても、当然ジオパークとの関連は常に考えて仕事をしてきているというふうに思っております。それは総務や企画部門においても同様であるというふうに考えております。ただ、まだまだその取り組みが各課の課長、係長を通じて浸透しているかということ、これからもう少し、浸透していかなきゃいけない部門かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

これはもう最初のことからずっと言ってるんですね、このジオパークの質問を始めたときから。初期のころの質問では、例えば社会資本整備というのは、今、課長から話がありましたけど、公共施設の整備に関して言えば、最初はせいぜい国道や県道への看板の設置ぐらいだったですね。そこへ行くアクセス道路、それから環境保全のための例えば治山、それから治水、砂防、それから地すべり防止というような工事に関しても、当然ジオパークと関連づけて考えていかなければいけないというふうになります。

平成21年に世界ジオパーク認定されて、もう3年が経過して、来年度に再審査を迎えますよね。各ジオサイトへのアクセス道路の改良や新設、例えば2つのヒスイ峡ですね、地図上で見ると山1つ隔てて、橋立ヒスイ峡と小滝のヒスイ峡があります。ずっと回るとえらい遠いんですけど、地図上で見ると非常に近いですね。この連携道路の新設だとか、今ほど言った砂防、地すべりといったような形、こういう観点の国、県との連携というのは、どういうふうに進められているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

私のほうから地域づくりという観点から、ちょっと1つ例を挙げて説明をさせていただきたいと思っています。

小滝地区は70%間近の高齢化の地区で、今24のジオサイトの1つの小滝川ジオサイトのあるところあります。ここで例えば22年、23年と県とタイアップした地域プロジェクト事業が展開されて、何とか特産品をつくりたいと。外から人を呼び込むための1つの目玉として特産品づくり、これに取り組んだりしてきております。

小滝地区の中では高齢化した地域とはいえ、おもてなしのいわゆるプロジェクトの中でいえば、受け入れ体制のプロジェクトになりますけども、決して上手ではありませんけれども、それでもバスを1台、2台こなす中で、少しずつ改善が図られているというふうに聞いております。

こういった地区住民の熱い盛り上がりがある一方、国、県の動きとして、皆さんがそう頑張っているのであれば、県道整備も応援しましょうということで、振興局みずから振興局配分の県道整備に多額の予算を費やしていただいています。これはもちろん、ジオサイトへのアクセス道路の整備であります。また、さらにその上へいきますと、北陸地方整備局松本砂防事務所が、いわゆる砂防事業にジオサイトの視点を入れて河川整備、堤防整備もろもろ含めてご協力をいただいています。

これは1つの地区の例ではありますけれども、こういったことで官の動き、それから民の動き、ある意味で、決して100%うまくいってる事例とは申し上げませんが、こういった形で着実に動いている。その結果、クラブツーリズム等のそういったソフトでの入り込みが何千人、あるいはまた何万人という形でふえていくこともあるというふうに思っておりまして、こんな取り組みが全市的な広がりとなるのが、このジオの戦略プロジェクトのあるべき姿なのかというふうにイメージをしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

具体的な例では新幹線にかかわる駅下から周辺整備については、まちづくり交付金の中でジオパークを生かした形の中で、およそ駅周辺から小滝地区までを含めた1,000ヘクタールを対象地区として、この中でジオにかかわるものについては、これはレンガ車庫の保存なり、キハの今展示についても、そういう中でやらせていただいていますし、また、新しい社会資本のほうも国のほうでいろいろ制度が変わりますが、そういう中では、いろいろ何年かの要望へ行く中では、常にジオの話をしとるもんですから、逆にそれに絡めるものとはというような照会も受けることもあります。そういう中では、やはりだんだんだんだん位置づけられておりますし、例えば仕事をとるときでも、ジオに絡めて補助事業をお願いしますという、伝わりやすくなったというふうなことはございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今、小滝の例、それから駅周辺の例というふうに、確かにジオが大分根づいて事業展開されているのはわかりますし、先ほど斉藤課長が言われたように、それが全市的な広がりになっていくということが、またいろんな社会資本整備にもジオパークが活かされていく。そして社会資本整備が整ったことによって、ジオパークが推進されていくということになっていくんだらうなと思います。

こども課では、ジオ給食の日を始めましたよね。山ノ井保育園の取り組みが、新聞でも取り上げられていました。地産地消給食では不足していた、栽培も加味されたすばらしい取り組みだというふうに思います。

このことを見て、ほかの部門でも水平展開できないかなと。要するに食とジオを絡めるということで、そういうふうに思ったんですが、例えば福祉部門の給食サービスに同様の展開をしていく、ジオ給食の日をつくるというようなことで、割と難しいお年寄りの理解を促進していきなっていくということもあるんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

現在、配食サービスを利用されている方は、高齢の方で120人ほどいらっしゃいますが、その中でジオを意識づけした食事提供ができるかどうか、検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

というようなことを、その1つの取り組みがあったときに、各課で何か考えてもらうという、くせをつけてもらいたいということなんです。例えば高齢者福祉の一環として高齢者対象の、といっても65歳の元気な方々も含めてですけど、ジオメニューやジオレシピのコンテストをやるとか、そういうことだってあり得るんじゃないかと思います。だから、こども課がジオ給食の日をつくったことによって、いろんな広がりを見せるというようなことを、ぜひ庁内で行ってほしいなと思いますね。

8月に奴奈川経済懇話会の講演会で、「大ヒットの方定式」という講演がありました。残念ながら、そう言ってる私も所用が重なって聞くことができませんでしたが、その後、いろいろな方から話を聞き、資料をいただいてちょっと勉強してみたんですが、ますます行けなかったことが残念に思える内容でした。市関係者の方でも聞かれた方はたくさんいると思います。

この吉田さんという講師の方は、お父さんが能生出身だということで、子どものころからよく能生で遊んでいたという話なんですが、さまざまな形で、いろいろな団体や個人と連携をとっていくということが重要だと思います。こういう機会をとらえて、また何かコネクションをうまくつなげていくというふうにしていかなければいけない。ありとあらゆるつてを絶対逃がさないで、強いも

のにしていくということが必要だと思うんですが、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、やはりジオパークは人と人とのつながりの中で醸成していく活動だろうと思っております。冒頭といたしまして、いろいろの中でお答えさせていただいたように、いろいろ今、情報が行き来し合う中において、人と人とのつながり、フェイス・トゥ・フェイスが、私はやはり一番信頼のあるつながりになっていくんだろうと思うわけでございまして、糸魚川という、ここを一つのふるさとというような形の中でのつながりのある方々においては、余計それが強くなるんだろうということで、ジオパーク大使や、また関係ある人たちについても、これからも広げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今、市長のほうからお話がありましたが、ジオパーク大使の皆さんには本当に大変頑張っていたいて、心より感謝するところでありますが、そこにあわせて新しい手もやっぱり打っていかなくちゃいけないですね。

担当である交流観光課長も困っているとは思いますが、市民の盛り上がりというか、理解がと言ったほうがいいんでしょうかね、思うように進んでいかない。やってる人はやってるでしょう、物すごく活発にやってるわけですけど、平均レベルでいくということなんですが。これはジオパーク戦略プランをつくったような委託などというような形ではなくて、専門家の意見を広く聞いて、アドバイスを受けられるようなつながり、輪を広げていくということが重要です。

必要な方には、またジオパーク大使のほかにも、もう少し違った形でアドバイザーになっていたかというような制度もつくっていったらいいんじゃないかなと思いますね。講演内容を私は人づてに聞く、資料を見ると、非常に糸魚川のことを、やっぱり一生懸命考えておられる方が大概講演してますよね。そういう新しい制度づくりというものも考えてもいいんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな制度、またいろんな手法、いろいろあると思うんですが、やはり糸魚川を売っていく上で何が一番いいのかというのも、そんなに絞り込まなくてもいいと思ってるわけではありますが、しかし、そういったものをとらえる中において、効果のあるものは少しでもお願いしていきたいとい

う気持ちであるわけでありませう。

しかし、今進めてるところもあるわけでございますので、それとあんまり相反するようなものであつては、今度は逆に市民のほうに戸惑うわけで、右の話か左の話か、どっちへ行けばいいのという話も出てくるわけでございますので、そういったところの整理もしながら進めていきたいと思つておるわけでありまして、私といたしましては市民の皆さん方、今、4万7,000人おれば、4万7,000の考え方があられるわけでございますので、そういった人たちみんなが、やはり乗っていかれるようなものが一番いいのだらうと思つております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

いろんな制度を、けんかするような制度はつくっちゃいけません。それはもう、もちろんなことですよ。その中で制度化するのがいいののかも含めて、考えていかなきゃいけないということとはよくわかりますので、ぜひそのところのつながりを、うまく糸魚川のために生かしていただけるようにしていただきたいと思つています。

このジオパーク戦略プラン、私も今回質問するに当たつて、ちょっとまた読み込んでみて、この話に戻っちゃうんですけど、これは多額の資金を投入しました。これ1,200万円だったですかね、およそ、そんなもんだと思つてますが、でき上がった内容を生かせるかどうか、それが高いかどうかということになっていくということだと思つています。内容にはちょっと不満が残りますね、初めから言つてるように。だけど結局、考えてみると、委託の段階でこちら側からの要求、求めているものが、やはりちょっと曖昧だったところがあったのではないかと、その時期には、委託する側が、はっきりしたイメージないまま、専門家が、こっちがびっくりするようないいもんをつくつてきてくれないかなという期待感で委託をしたというような言い方が、当てはまるのかなという気がします。

今、作成の委託をすればしたら、もっと違う要求の仕方をして、いいものをつくらせることも多分できるんじゃないかと思つてるところが、1つの切り口にもなっていくと思つてんですが、そういうふうに思いませんか、私はそう思つてんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに何もなしの中へ今突入していただいておりますので、前例も、またそうしたモデルもない状況で、我々は方向性をどのようにまとめていくのか、方向性はやっぱり市民の皆様方にお示しもなくちゃいけない中においては、言葉だけではだめだぜという中で進んだわけでありまして、そしてどちらかという、本当に基本構想的に入つていったわけでありまして、そういう中で逆に今ジオパークをやつておる、特に5地域ぐらいが日本の中でも最先端を進んでる中において求めたわけでありまして、非常にわかりにくいところも出てきておると思つておりますし、また、違

ったような部分を見受けられる部分もあるわけであります。

そういう中で、それを1つの切り口として進めさせていただきながら、また具体的に進める自己体制のプロジェクトを持っておるわけでございまして、それをどのように生かしていくかと、本当に先ほど議員がご指摘のとおり、我々はそれをしっかり使うことが大事だと思っております。専門家のつくったものでございまして、決して違ってる部分はないんだろうと思っておるわけですが、それをどのように我々は生かしていくかということを、検討していかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

策定段階で、私もこれ途中で見せてもらったときに、ああ、さすが専門家だ、周辺分析といいますが、環境分析は抜群にすごいなと思いました。ところが打っていく策が、やはりちょっと総花的で具体性に欠けていて、どうもよくないなと思ったわけですが、これは今、市長が言われるようにやっぱり専門家がつくったものなので間違いはないんです。ただ、おもしろくない、言ってみりゃね、そういう言い方ができるんかもしれないです。

それで今みたら、今これを委託したら、もっといいものがつくれるということは、この中身をしっかりと分析していけば、何が必要であるかということが、もう今既に具体化してきているんだと思うんですよ。だからそこをヒントにしながらいろんな切り口を見つけていく、具体的にしていこうということが大切であろうと思います。

そして先ほども言いましたような外部との連携の中で、何を目的として、どのような団体や個人と連携をとった取り組みをしていくべきか。また別の目的では、また違った方々と連携を求めるといようなことが明確になるんじゃないですかね。今であればそういう視点で、今、庁内で苦しんでいる部分、多分、交流観光課長は大分苦しんでると思いますよ。そこをどういうところに救いを求めていくか、ヒントを求めていくかということが、具体的にになってきてるんじゃないかなと思うんです。そこに視点を置けば、置かなきゃだめですよ、そこにしっかり取り組んで考えなきゃだめですけど、そう今できるんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

今やったら、それよりいいものができるかということで非常に難しいんですけど、エネルギーをかなり使いましたんで、それ以上のものは、どうかなともまた思っております。

ただ、データ検証等は非常にかなり緻密にやっていただいたと思っております。そういう題材が、1つジオパークの戦略プランとしてあったゆえに、このプロジェクトができたのと、それから、それに対してやっぱり刺激を受けて、各活動をしなきゃいけないというふうな心構えに変わってきておりますので、やはりそれなりに意義があったものと。

ただ、今、議員おっしゃるとおり、はっきり言いまして、何を狙うかというのが大きく見えてき

てると思います。1つは、やはり先ほどから言ってる市民としての総体のジオパークに対する意識をもうちょっと上げていくということ、それから職員も同様だと思います。きょうも昼、帰りましたらはがきが来てました、資料請求のはがきでした。これは埼玉県です。新潟へ行くので二、三週間後に、糸魚川市の資料を送ってくださいということで、即座に対応していただきましたけど、やはり「糸魚川」の「魚」は、「魚」ではなくて井戸の「井」でした。そういうことが実態であります。

これも1つ、やはり紹介事例なんですけども、はとバスのアンケートでもたくさんとらせていただきました。ほかのクラブツーリズムでもとらせてもらっております。そのデータでは、糸魚川に初めて来ましたとか、知りませんというのが圧倒的に多いです。そのためにもやっぱり情報発信は必要だし、いろんなツールを使っての展開が確かに考えられると思います。試行錯誤でありますけども、いま一歩進めながら糸魚川が定着するように、字も覚えられるような形で、今後も情報発信をしてまいりたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

決意表明みたいだったんですけど、僕が言ったことには答えてないと思います、残念ながら。どういう人たちにアドバイスを求めていったらいいか、どういうところを外に求めていったらいいか、中で苦しんでいる分、そういうことが明確になってきてるんじゃないですかということ聞いたんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ちょっと決意表明的にとられたみたいですけど、別に力んだわけではなくて。

基本的には、市内外を含めた第三者の意見が貴重かなというふうに思ってます。今、東京大学の庭師倶楽部にも活躍していただいております。あるいはJRの皆さんとも連携しております。また、観光協会とも常日ごろやりとりしてます、商工会議所もあります。いろんな意味で、外に向けての飯山さんとか小谷さんからも、いろんな交流をさせてもらってます。

外から見た糸魚川、それをしっかり認識しながら、やはりもうちょっと情報提供を含めて活動を強化しなきゃいけないと思ってますけど、いろんな方々からお知恵、ないしは題材をいただく中で、やっぱり今の取り組みの状況をしっかり把握していきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

外からの視線って大事ですよ。やっぱり中側で一生懸命やってる、それを外の人がどういうふうに見てるかと。

例えば見せ方という言い方をよくしませんが、何を見たがっているかというところを、しっかり把握していくってということが大事だというふうになると、やはり外からの視点で、そこを考えていかなければいけないということ。自分がジオパークってこういうものだから、こういうふうに説明したいという思いでは、多分、相手は面倒くさくてしょうがないですね。そうでなくて、何を見たがっているかという、聞きたがっているかということ、しっかりと伝えていかなきゃいけない。

最後になりますが、平成21年の認定以来、一生懸命に取り組んできた今現在、一度取り組んでいる、一生懸命やってる状況から背を伸ばして、これまでを振り返って、そして足元を見詰め、そして将来を見据えて考えるべきところを考え、検討すべきところを本当に必要なメンバーで検討する。必要なときは外部の力も借りる、なるべくお金をかけないで。そして目指すところを再度明確にした上で、立てるべき方策をしっかり立てて、進んでいっていただきたいというふうをお願いをしまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

それでは、本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

+

午後3時37分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員